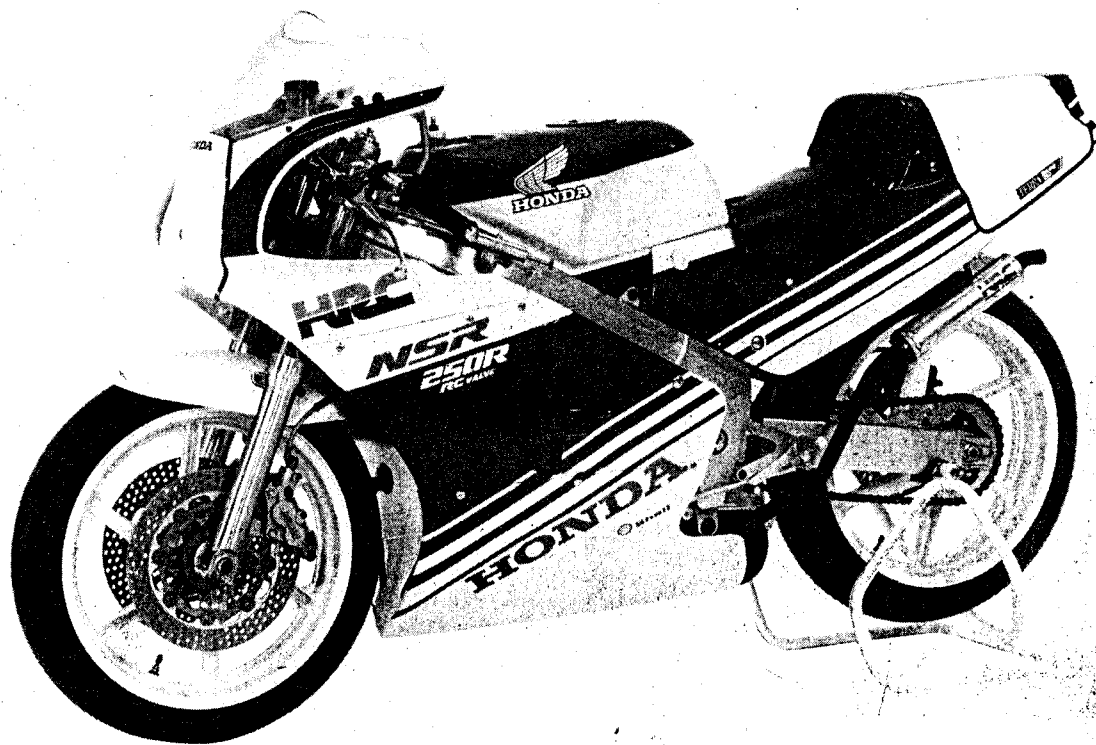


HRC
HONDA RACING

'88 NSR250RK

FORMULA-III KIT SET UP MANUAL



エンジン主要諸元

総排気量 (cm ³)	249	
汽缸内径×行程 (mm)	54.0×54.5	
圧縮比	7.7	
最高出力 (PS/rpm)	68以上/11,750	
最大トルク (kgf-m/rpm)	4.3以上/11,000	
シフト変速比	I	2.235 (38/17)
	II	1.619 (34/21)
	III	1.333 (32/24)
	IV	1.154 (30/26)
	V	1.074 (29/27)
	VI	1.000 (28/28)

キット組込プロト車のためキット部品と一部異なる場合があります。

このパーツは競技用として製作されたスペシャルパーツです。一般量産車と異なり保証の対象にはなりません。

このパーツを組みますと一般道路での走行はできませんのでご注意ください。

取組内容、仕様等は車両の改良のため、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承下さい。

ここに書かれている項目以外については本田技研工業㈱より発行していますホンダNSR250Rのサービスマニュアルを参照して下さい。

HRCクレバービーフルシリーズ第11弾「NSR250R BASIC TECHNOLOGY from HRC」としてレーシングマシンに改造するポイント、キットパーツ取付上特に重要な点やF-3レースに参加していくうえで不可欠な知識を盛り込んだ小冊子(価格1,300円+送料240円)を発売しております。

株式会社 ホンダ・レーシング

〒352 埼玉県新座市野火止8丁目18番4号

TEL 0484-77-9538

FAX 0484-77-6361

●保証について

このパーツは競技専用として製作されています。従って一般量産部品と異なり保証の対象にはなりません。
またこのパーツの組込みが原因で一般量産部品に影響をおよぼしたと判断されましたとしても一般量産部品でも保証の対象にならないことがあります。あらかじめご了承ください。

●キット組込マシンのご使用について

このパーツを組込んだマシンは競技専用となります、一般公道での走行ができませんのでご注意ください。



www.tyga-performance.com

目次

I 取扱い要項

1. 燃料	2
2. 冷却水	2
3. ならし運転	3

II 点検・調整要項

1. 作業上の注意事項	4
2. 走行前のチェックポイント	5
3. 暖気運転	5
4. 走行中のチェックポイント	5
5. 走行後のチェックポイント	5
6. グリース・ロックタイト塗布箇所	6
7. 締付トルク	6
8. 交換部品	7
9. 点検	7

10. 組込要項

● ノービスF-IIIキットASSY (エンジン・電装)	8
● " (トランスミッションキットASSY)	15
● " (キャブレターセッティングキットASSY)	16
● " (エキゾーストチャンバーセット)	19
● " (メーターセット)	22
● " (エレクトロリックセット)	22
● オプションパーツ (ドライブクラッチキット)	27
● " (フューエルキャッチパーツキット)	29
● " (オイルキャッチタンクセット)	29
● " (ラジエターセット)	30
● " (キャブレターボックスセット)	32
● " (ウォーターテンプメーターセット)	34
● " (フロントブレーキホースセット)	34
● " (バックステップセット)	35
● " (リヤクッションセット)	36
● " (ステアリングダンパーセット)	39
● " (カウリングセット)	40
● " (フロントホイールASSY)	42
● " (リヤホイールASSY)	42
● " (フロントフォークASSY)	42
● " (フロントキャリパー)	45

● オプションパーツ (スイングアームASSY)	44
● その他パーツ	44
● ワイヤリング	45

I. 取扱い要領

1. 燃料

NSR250RKは2サイクル混合給油エンジン車です。燃料は混合ガソリンを使用してください。

タンク容量：16ℓ 使用ガソリン：レースガソリン

指定混合用オイル 混合比

シェル スポーツSX 30：1 カストロール A747 30：1

《注意》

- 冬場での使用は特に混合を十分行ってから使用してください。
- 混合油は長時間放置すると潤滑性が著しく劣化するので24時間以内に使用してください。
- オイル缶を開封したオイルは、1ヶ月以内に使用してください。
- 他銘柄との混合は絶対にさけてください。

2. 冷却水

このマシンは水冷エンジンです。冷却水を補給してください。

使用冷却水：軟水または飲料水

レース終了後はラジエターやエンジン冷却水通路の腐食や目づまりなど、トラブル防止のため、冷却水を抜いておくようにしてください。

3. ならし運転

1) 新車時

エンジン回転をなるべく一定にキープするように走行し、シフトアップ、ダウンは下記回転で行う。
なるべく高いギヤで走行するようにし、サーキットのストレートを走行時は、5～6速の高いギヤで走行するようにする。

指定回転数

- ① 7,000rpm以下…約50km走行 (約30分間)
 - ② 8,000rpm以下…約15km走行
 - ③ 9,000rpm以下…約15km走行
 - ④ 10,000rpm以下…約15km走行
- (約30分間)

TOTAL 95km位 (約1時間)

《注意》

- ならし運転時のキャブレターセッティングはガソリンを濃い目にセット (メインジェットの番数を2ランク上げる。)
- ならし運転終了後シリンダー・ピストンの当たりを確認し、当たりの強いところは、耐水ペーパー(#600位) にて修正する。

修正方法は当たりの強い部分に軽く親指の先をあて、間に耐水ペーパーをはさみ円周方向に引張りながら当たりの強さにより何回か繰返し行う。

- ならし運転終了後 RC バルブコントロールケーブルワイヤーの伸びを確認する。

2) 部品交換時

- ① シリンダー、クランクシャフトを交換した場合新車時と同様、約95km (約1時間) 位のならし運転を行う。
- ② ピストン、ピストンリング、ギヤー等エンジン部品を交換した場合

- ① 7,000rpm以下…約20km
 - ② 8,000rpm以下…約10km
 - ③ 9,000rpm以下…約10km
 - ④ 10,000rpm以下…約10km
- 約50km位
(約30分)

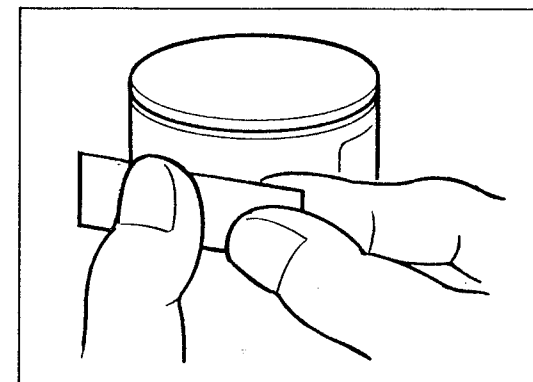
車両の調子を見ながら、ならし運転を行う。

《注意》

- ならし運転時のキャブレターセッティングはガソリンを濃い目にセット (メインジェットの番数を2ランク上げる。)
- ならし運転終了後シリンダー・ピストンの当たりを確認し、当たりの強いところは、耐水ペーパー(#600位) にて修正する。

修正方法は当たりの強い部分に軽く親指の先をあて、間に耐水ペーパーをはさみ円周方向に引張りながら当たりの強さにより何回か繰返し行う。

- ならし運転終了後 RC バルブコントロールケーブルワイヤーの伸びを確認する。



II. 点検・調整要領

1. 作業上の注意事項

- ・パッキング、ガスケット、割ピン、ピストンピンクリップ、タンクワッシャー等は分解時には新品と交換する。
- ・Oリング膨潤状態を確認し、しめしろがあれば3～4回使用可。
サークリップ-摩耗、折損、変形のない場合は使用可。
- ・ボルト、ナット、ビス類の締付けは、径の大きなものから小さなものへ、内側から外側へ対角に規定の締付トルクで締付ける。
- ・部品、油脂類は必ず純正、指定部品を使用する。
- ・専用工具を必要とする作業には必ず使用する。
- ・2人以上で行う共同作業の場合はお互いの安全を確認しながら行う。
- ・エンジンの部品は分解後洗浄（電装品以外）し、組立時には摺動面にオイルを塗布する。（又はモリブデングリース）
- ・組立時指定箇所にはグリースを塗布または封入する。（オイルシール含む）
- ・組立後は、各部の締付け、作動を必ず点検する。
- ・フューエルパイプ、ブリーザーパイプ等のクリップを忘れずに取付ける。
- ・回転部及び摺動面は、組立時には、必ずその作動及びクリアランスを確認すること。
- ・全ての部品（特にサークリップ）の方向性を確認する。
- ・ローラー及びボールベアリングは入念な洗浄を行い、オイル（グリース）無しでの空転は避けること。
- ・ゆるみ止めのロックピン（割ピン）をロックする時は、締付方向で位置を合わせること。
- ・テーパー部（例えばACG）は、脱脂を行い、軽く組付けて喰い付くこと。
- ・ワイヤー・ホースの通し方は、ワイヤリングイラスト通りとし、そのクランプは適切であること。
- ・補強、溶接、軽量化は適切な指導の基に行うこと。
- ・割ピン、ワイヤーロック等は整備完了後ビス検と共に行うこと。
- ・Oリング、ゴム類等の洗浄は、洗浄液をウエス等に含ませて短時間に行う。（ブレーキ系はのぞく）
- ・各ギヤーの入り具合は、組付け後必ず確認すること。
- ・フューエルタンク取り外しにおいては必ずコックは、OFFにする。又、フューエルホースに残っている生ガスはプラグ、チャンバー等にかからぬよう注意の事。

2. 走行前のチェックポイント

- ・オイル量（ミッションオイル含む）の点検
- ・プラグの締付け，プラグキャップのゆるみ点検
- ・クラッチ作動の点検
- ・ビス・ボルト類の締付けの点検（特にアクスル，ドライブスプロケット及びドレンボルトのワイヤーロック）
- ・スロットルグリップ回り，キャブスロットルバルブの作動点検
- ・フレームヘッド回りの点検
- ・タイヤ空気圧及び摩耗具合の点検
- ・ブレーキの遊び，効き及びブレーキオイル量の点検
- ・ドライブチェーンの張り，給油
- ・ガス洩れの点検

3. 暖気運転

- ・エンジンの回転は低速より徐々に上げる
- ・水温計の作動の点検
- ・オイル洩れ，水洩れの点検
- ・スロットルレスポンスがスムーズになったら終了する。（水温60℃にて完了）
- ・無負荷での高回転キープ（スロットル全開）は絶対に行わないこと。

4. 走行中のチェックポイント

- ・水温計，回転計の指針は適切か
- ・キャブレターのセッティングは適切か
- ・ギヤレシオのセッティングは適切か
- ・操作系の作動は適切か
- ・ブレーキの効き具合はどうか

5. 走行後のチェックポイント

- ・プラグの焼け具合の点検
- ・オイル，水洩れの点検
- ・ビス，ボルト類のゆるみ，脱落の点検

6. グリース・ロックタイト塗布箇所

項 目	2サイクル オイル	ミッション オイル	モリブデン グリース	グリース	ロック タイト	シリコン (KE-45)
エンジン：						
クランクシャフトベアリング	○					
コンロッド小端，大端ベアリング	○					
ピストン	○					
ピストンピン	○					
ピストンリング	○					
シリンダー（ボア面）	○					
ミッションギヤ		○				
ミッションシャフト		○				
ギヤシフトフォーク		○				
ギヤシフトフォークシャフト		○				
オイルシール（リップ）				○		
クラッチリフターロッド			○	(○)		
クラッチリフタージョイント			○	(○)		
スチールボール（クラッチリフターロッド）			○	(○)		
クランクシャフトR,Lボルト					○	
シフトドラムセンターボルト					○	
ベアリングセットプレートビス					○	
スタッドボルト（埋め込み部）					○	
クラッチセンターナット					○	
フランジボルト 6×12（クラッチアウター）					○	
フレーム：						
ヘッドパイプベアリング上，下				○		
リヤフォークピボットボルト				○		
リヤフォークピボットベアリング				○		
リヤブレーキベダルピボット				○		
チェンジベダルブラケットピボット				○		
リヤキャリパーブラケットピボット				○		
リヤクッションアームベアリング				○		
スプロケットワッシャー				○		
チェンスライダービス					○	
リヤブレーキホースクランプビス					○	
フロントブレーキディスクボルト					○	
リヤブレーキディスクボルト					○	
エクゾーストチャンバージョイント						○
サイレンサージョイント						○

7. 締付けトルク

締付け箇所	ネジ径×ピッチ	トルク kgf・m
エンジン		
シリンダーヘッド	M7×1.0	1.2~1.6
シリンダー	M8×1.25	2.3~2.7
ACジェネレーターローター	M10×1.25	5.0~6.0
プライマリーギヤ	M10×1.25	5.0~6.0
クラッチセンター	M20×1.0	7.5~8.5
クランクケース	M8×1.25	2.3~2.7
ドレンボルト	M10×1.25	2.0~2.5
ドライブスプロケット	M10×1.25	6.0~7.0
フランジボルト 6×12	M6×1.0	1.2~1.4
ビス 4mm（サーボモーター）		0.15
フレーム		
ステアリングステムナット	M24×1.0	9.0~12.0
ステアリングトップスレッド	M26×1.0	2.3~2.7
フロントアクスル	M14×1.5	5.5~6.5
リヤアクスルナット	M18×1.5	8.5~10.5
リヤフォークピボットナット	M14×1.5	6.0~7.0
ブレーキホースオイルボルト	M10×1.25	3.0~4.0
エンジンハンガーボルト	M10×1.25	3.5~4.0
エンジンハンガーアジャストボルト	M20×1.5	1.0~2.0
エンジンハンガーロックナット	M20×1.5	6.0~7.0
エンジンストッパーリンクボルト	M12×1.25	5.0~6.0
キャブレターホールドブラケット	M10×1.25	2.0~3.0

標準締付けトルク

種 類	締付けトルク (kgf・m)	種 類	締付けトルク (kgf・m)
5mm ボルト・ナット	0.45-0.6	5mm ビス	0.35-0.5
5mm ボルト・ナット	0.8-1.2	6mm ビス	0.7-1.1
8mm ボルト・ナット	1.8-2.5	6mm フランジボルト・ナット	1.0-1.4
10mm ボルト・ナット	3.0-4.0	8mm フランジボルト・ナット	2.4-3.0
12mm ボルト・ナット	5.0-6.0	10mm フランジボルト・ナット	3.5-4.5

8. 交換部品

1) 定期交換部品

項 目	交 換 時 間	判 定 基 準
エンジン		
ピストン	約500km	スカート部の傷, 摩耗
ピストンリング	約500km	合口部欠損, 摩耗
ピストンピン	約1,000km	焼け, 傷, 外径
コンロッド小端ベアリング	約1,000km	焼け, ニードル傷, 摩耗
スパークプラグ	約500km	電極の摩耗, 隙間, 碍子の破損
ミッションオイル	初回100km, 以後1,000km	汚れ, 白濁
クランクシャフト	約2,000km	歪, 傷
スラストワッシャー-38×44×1.5 (90423-NH3-910)	約1,000km	摩耗
O-リング (91302-NH3-910)	約1,000km	オイル洩れ
フレーム		
ドライブチェーン	約500km	伸び, 摩耗
チェーンスライダー	約1,000km	摩耗
フロントフォークオイル	初回100km, 以後約3 レース	汚れ
ブレーキオイル	3ヶ月	汚れ

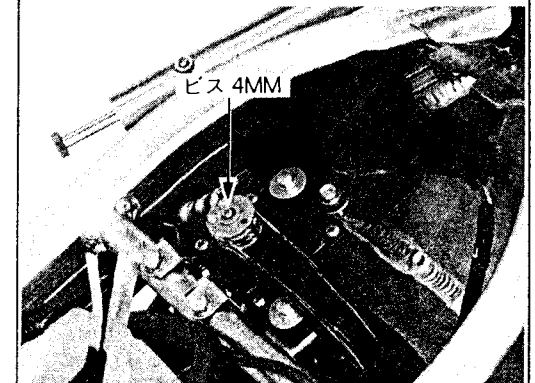
※交換時間はスプリントレースを基準にしています。又, 交換時間は参考目安として記しております。
尚, 交換時期前に不良になっても保証の対象にはなりません。

2) その他の消耗交換部品

項 目	判 定 基 準
エンジン	
シリンダーヘッドガスケット	分解時毎
リードバルブ	リード破損, ヘタリ
クラッチディスク	厚さ, 変色, 摩耗
シリンダーガスケット	分解時毎
R.クランクケースカバーガスケット	破損
クラッチスプリング	ヘタリ
ドライブスプロケット	摩耗, 破損
フレーム	
ブレーキパッド	摩耗
タイヤ	摩耗
ドリブンスプロケット	摩耗, 破損
エキゾーストチャンバースプリング	ヘタリ, 損傷
サイレンサーグラスワール	ホーンオーバー

9. 点検, 整備

項 目	メンテナンス インターバル	備 考
ゆるみチェック	レース毎	フランジナット 8 mm (シリンダ)
	"	ロックナット 20mm (クラッチセンター) (締付ねじ部ロックタイト塗布)
	"	フランジボルト 6×12 (クラッチアウター) (締付ねじ部ロックタイト塗布)
	"	ビス 4 mm (サーボモーター) (締付ねじ部ロックタイト塗布)



10. 組込要領

●ノービス F-III キット ASSY (エンジン・電装)

1) フラップバルブ R/L (=RC バルブ)

- ① ボルトをはずし、ケーブルガイドベースを外す。
- ② シャフト (バルブを全開状態にして抜く)、ダストシールを外し、フラップバルブを外す。
- ③ シャフトからカーボンを除去する。
- ④ シャフトに損傷がないか点検する。
- ⑤ シリンダーにキットのフラップバルブをセットする。
- ⑥ シャフトの広い切欠きとバルブの広い歯を合わせカラーを通しシャフトを組付ける。
- ⑦ 図のようにバルブ全開にし、シックネスゲージですき間を計り、0.3 mm 以下になるようにフラップバルブをヤスリで削る。

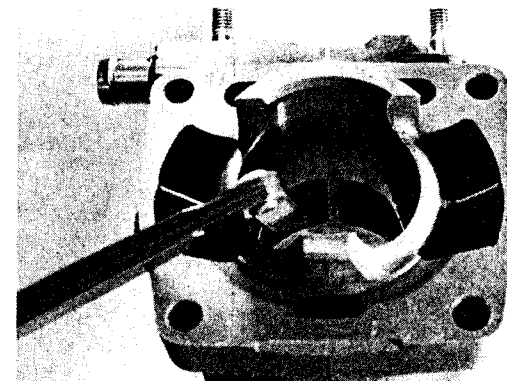
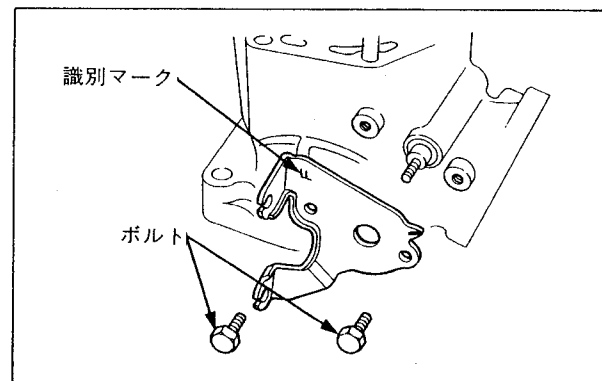
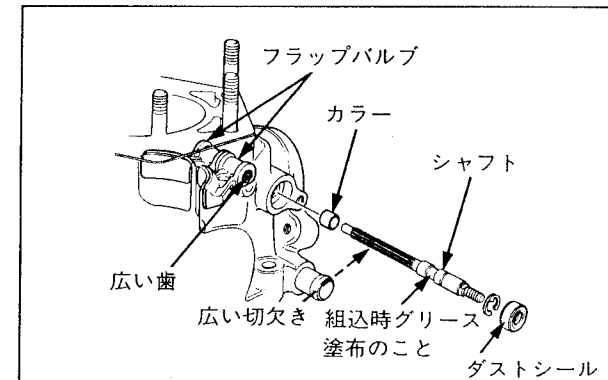
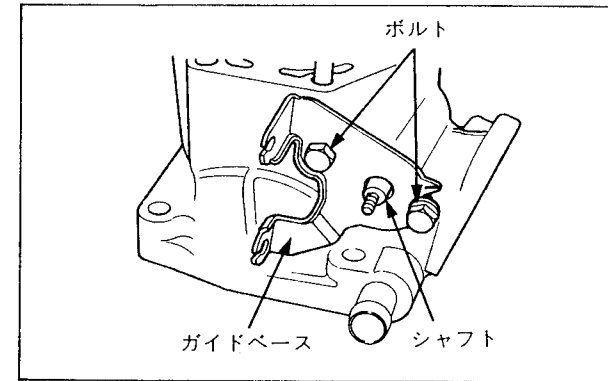
(バルブがスムーズに作動するならば、バルブ本体とシリンダー壁面とのすき間は少なければ少ないほどよい。)

- ⑧ シリンダー壁面とバルブの干渉がないか、シャフトを軽く動かして確認する。
- ⑨ 新品のダストシールを取り付ける。
- ⑩ ケーブルガイドベースを取り付ける。

“F”, “R” の識別マークがあるので注意すること。

F マークは# 2 フロントシリンダー, R マークは# 1 リヤシリンダーである。

- ⑪ ケーブルガイド及びバルブケーブルをセットする。



図⑦

2) バルブチェッカーユニットの取扱い。

バルブチェッカーユニット (以下、チェッカー) はエンジンを始動させずに RC バルブ廻りの作動チェックやワイヤー張り調整等を行う時に使用する付加装置で、チェッカースイッチとの組み合わせにより使用する。

①使用する RC バルブチェッカー一式

31850-NF5-750 VALVE CHECKER UNIT ASSY.

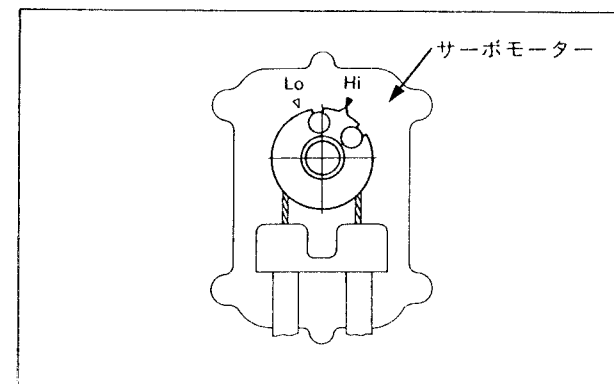
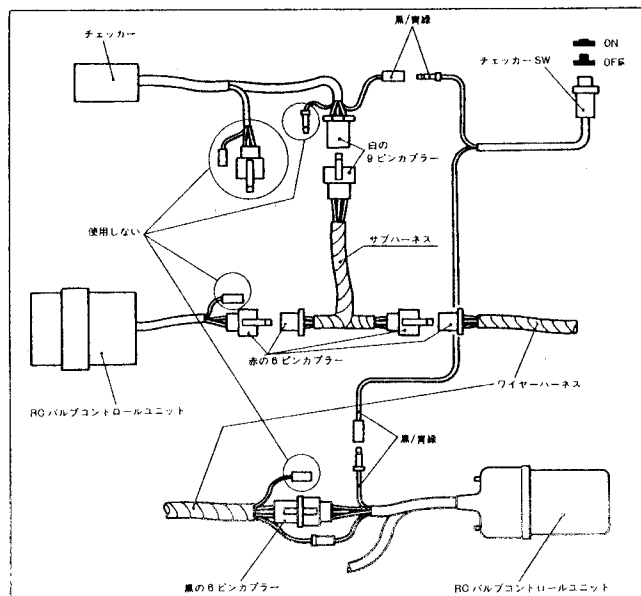
31860-NF5-750 CHECKER SW

31870-NH3-900 SUB CHECKER HARNESS

※VALVE CHECKER UNIT ASSY. と CHECKER SW は'88 RS250R に同梱されている物と同じです。お持ちの方は、SUB CHECKER HARNESS のみ購入下さい。

②操作方法

- ①右ハンドルのキルスイッチ (電源スイッチ) を OFF にする。
- ②チェッカーとチェッカースイッチとサブハーネスを接続する。
- ③右ハンドルのキルスイッチを RUN にする。
- ④チェッカースイッチ ON の位置でサーボモータープーリー “HI”
チェッカースイッチ OFF の位置でサーボモータープーリー “LOW”
- ⑤サーボモーター “HI” の位置でワイヤー調整を行う。(10頁参照)
- ⑥調整後キルスイッチを OFF にして、チェッカースイッチとサブハーネスを外し、ワイヤーハーネスを元の状態に戻す。

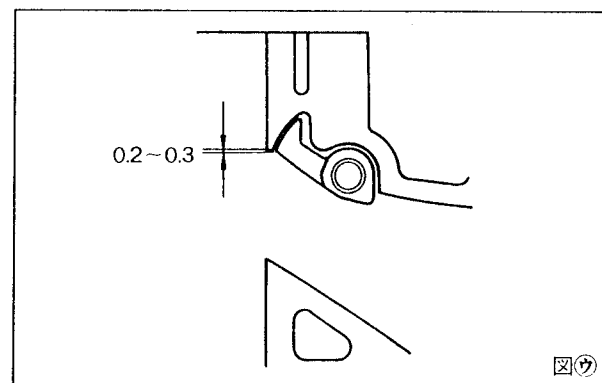
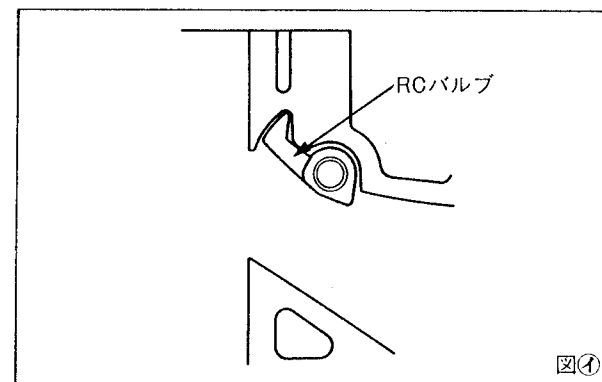
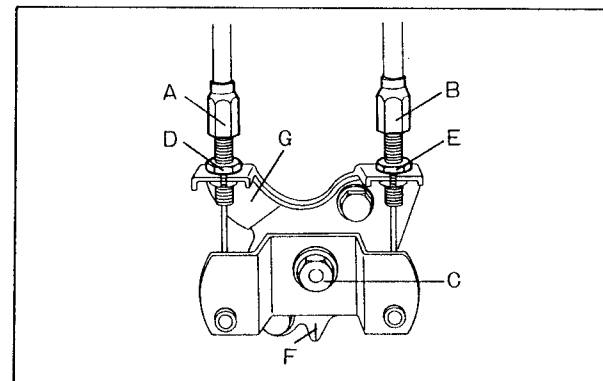


3) RCバルブワイヤー調整

- ①エンジンを搭載した状態でラジエター、シリンダーヘッド又はチャンバーを外す。
- ②バルブチェッカーユニットを結線する。(9頁参照)
- ③サーボモータープーリー“HI”の位置にする。(9頁参照)
- ④“LOW”引き側ケーブルのアジャスターBをねじ込んでワイヤーにガタをもたす。
- ⑤“HI”引き側ケーブルのアジャスターAをプーリーにガタがなくなるところまで廻す。
ガタの有無はロックナットC(左ねじ)をレンチで左右に回転させて確認する。
- ⑥この状態でRCバルブは④図のように収納部に入り、排気ポート上面より引っ込んだ状態となっている。
ここからアジャスターAを約2回転ねじ込む。
- ⑦ロックナットDを締め付ける。
- ⑧“LOW”引き側ケーブルのアジャスターBをプーリーにガタがなくなるところまで廻す。
- ⑨ロックナットEを締め付ける。
- ⑩この状態で⑤図のようにRCバルブが正しい“HI”の位置か、指でさわって確認する。
(RとLで差がある場合は下がっているRCバルブの方を基準に位置を決める。)
- ⑪⑩の位置でない場合は⑥のアジャスターAのねじ込み回転量をかえてワイヤー再調整をする。
- ⑫チェッカースイッチで⑩を確認する。
- ⑬外したラジエターシリンダーヘッド又はチャンバーを取り付ける。
- ⑭エンジンを始動させRCバルブが作動することを確認する。

《注意》

- エンジン側プーリーの突起部(F)の位置をケーブルガイドベース(G)にケガいておくと、シリンダーヘッド又はチャンバーを外さなくても、RCバルブの“HI”位置が確認できる。



4) シリンダーヘッド・シリンダー

①シリンダーヘッド

燃焼室のカーボンを取り除き、ピンホール、クラック等の異常がないか点検する。異常がある場合は修正または交換する。

修正方法は、耐水ペーパー（＃600位）でカーボンを取り除くか又はアルコール及び洗浄液で拭き取るも可。

《注意》

●シリンダーガスケットは分解時、必ず交換のこと。吹き抜けの原因になる。

②燃焼室容積の調整

①リングの外周部にグリースを塗布する。

②ダイヤルゲージにてピストンを上死点にする。

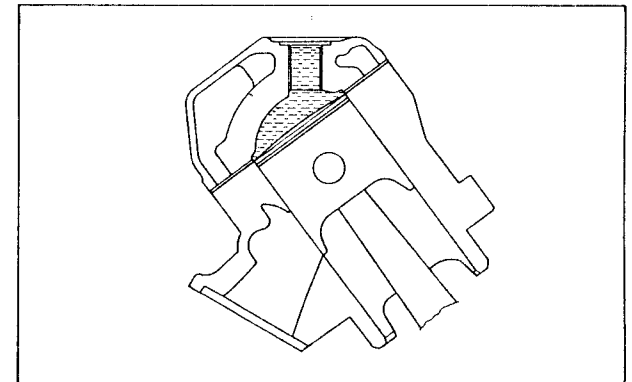
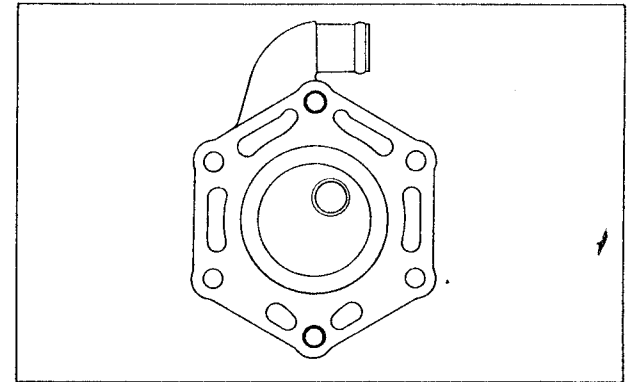
③プラグ穴より溶液（指定ミッションオイル50%+灯油50%）をプラグ座面まで入れ容積を確認する。

④容積が11.5cc～11.7ccになるようにシリンダーガスケット（厚さ：0.4又は0.6）にて調整する。

厚さ：0.5（STD）→0.4にすると0.2cc容積がへる。

⑤ガスケット厚さをかえた場合

①～④を繰り返し11.5cc～11.7ccになっているか確認する。

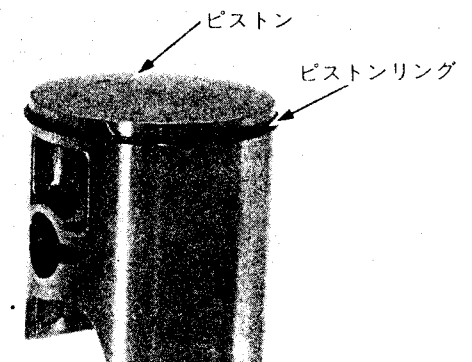


5) ピストン・ピストンリング

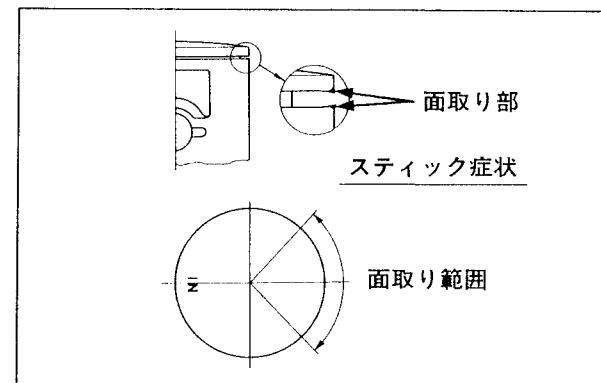
①ピストン頭部のカーボンを取り除き、周囲の傷、当りおよびピストンピンボスのクラックを点検する。

②ピストンリングの摩耗、当り具合を点検し、カーボンスティックの場合は、周囲のカーボンを取り除く。

③ピストンの当りの悪い場合は、耐水ペーパーで修正する（3頁参照）。

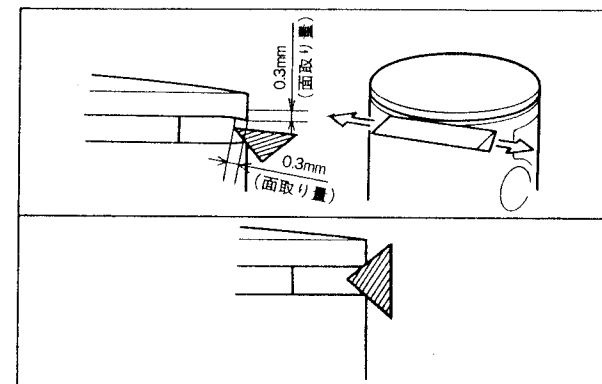


- ④メカニカルスティックを防ぐには、ピストン新品時にリング溝をあらかじめ三角オイルストーンでガソリンをつけながら面取りする。
 ならし走行後チェックしスティックが発生した時は面取り作業を行う。

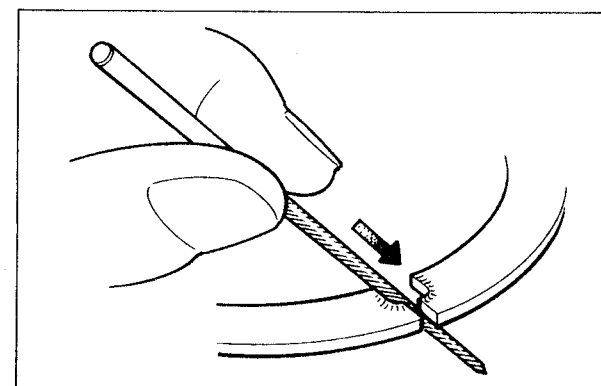


⑤面取り方法

- ・リング溝の上/下を片側ずつ三角オイルストーンで面取り (約C0.3) をし、最後に三角の角の部分で、上/下両方の仕上げを行う。



- ・ピストンとのスティック防止のため、リング合い口部を丸ヤスリ等で面取り (約C0.3) する。



6) スパークプラグ

指定プラグ

NGK COMPACT : 9.5

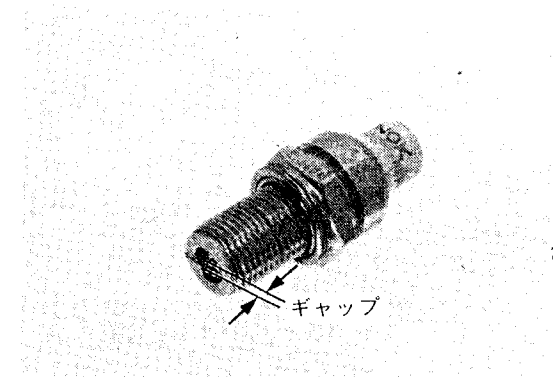
10 (STD.)

10.5

規定ギャップ : 0.5~0.6mm

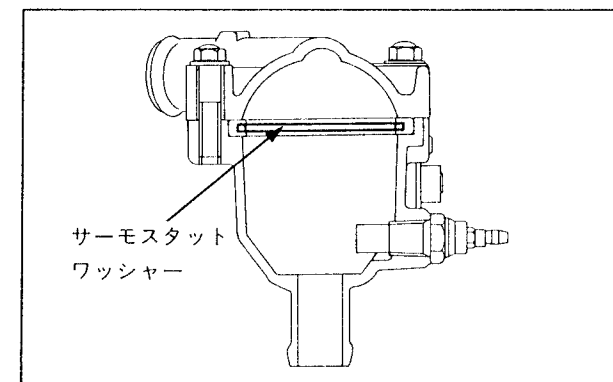
《注意》

- 熱価の合わないプラグを使用すると、エンジントラブルの原因となりますので注意する。



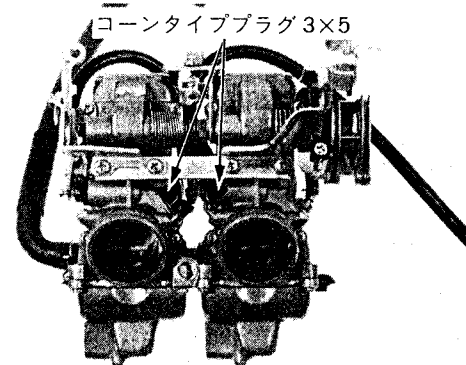
7) サーモスタットワッシャー

- ・ ベースについているサーモスタットをとりはずしワッシャーを組み込むこと。



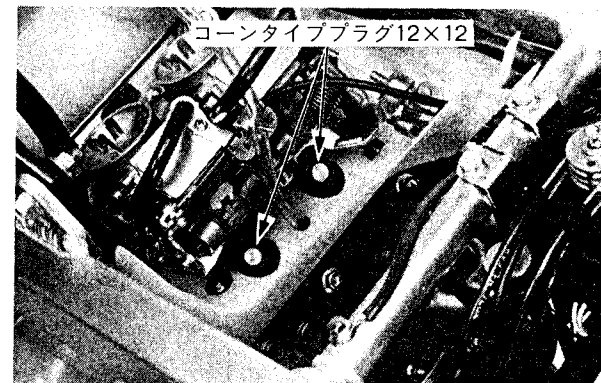
8) コーンタイププラグ 3×5

オイルパステューブをカットし耐ガス接着剤（セメダイン540）をつけてパイプに圧入のこと。



9) コーンタイププラグ 12×12

ベースに付いているインテークチャンバーをはずし耐ガス接着剤（セメダイン540）をつけてパイプを圧入のこと。

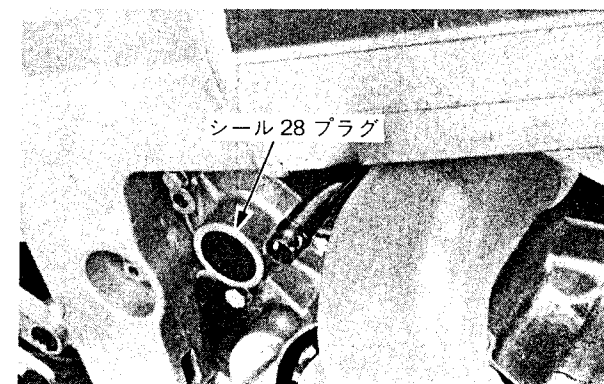
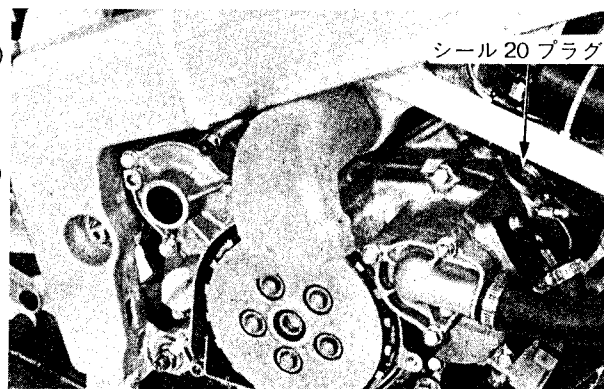


10) シール20プラグ

プラグに接着剤（アラルダイト、スタンダード）をつけてケースに圧入のこと。

11) シール28プラグ

プラグに接着剤（アラルダイト、スタンダード）をつけて R カバーに圧入のこと。



●トランスミッションキット ASSY.

・オプションギヤ組合せ

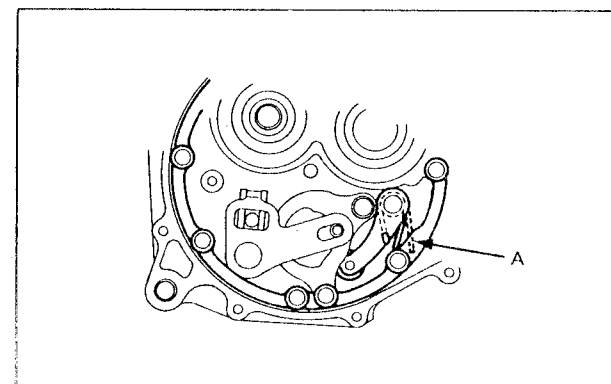
ミッションギヤはオプション部品が出ており、特に C-1, M-2, C-2, C-3, C-4, M-5, C-6 ギヤは同じ歯数でも相手ギヤが変わりますのでマーキングを確認して組み込むこと。

ギヤ		メインシャフト			カウンターシャフト			レシオ
		マーキング	歯数	部番	マーキング	歯数	部番	
1st	STD	No mark	17	23210-NH3-000 23210-NH3-900 (ドライクラッチ装着用)	C1	38	23421-NF5-000	2.235
	OP.	2 lines	18	23210-NH3-810 23210-NH3-930 (ドライクラッチ装着用)	C1-2	38	23421-NF5-810	2.111
2nd	STD	M2	21	23431-NF5-000	C2	34	23441-NF5-000	1.619
	OP.	M2-2	21	23431-NF5-810	C2-2	35	23441-NF5-810	1.667
	OP.	M2-3	20	23431-NF5-820	C2-3	35	23441-NF5-820	1.750
3rd	STD	M3	24	23451-NF5-000	C3	32	23461-ND5-751	1.333
	OP.	M34-2	23	23451-NF5-810	C3-2	32	23461-ND5-861	1.391
	OP.	M4-2	24	23451-NF5-820	C3	32	23461-ND5-751	1.333
4th	STD	M4	26	23451-NF5-000	C4	30	23481-NF5-000	1.154
	OP.	M34-2	25	23451-NF5-810	C4-2	30	23481-NF5-810	1.200
	OP.	M4-2	25	23451-NF5-820	C4-2	30	23481-NF5-810	1.200
5th	STD	M5	27	23491-NF5-000	C5	29	23501-NF5-000	1.074
	OP.	M5-2	27	23491-NF5-810	C5-2	28	23501-NF5-810	1.037
6th	STD	M6	28	23511-NF5-000	C6	28	23521-NF5-000	1.000
	OP.	M6-2	29	23511-NF5-810	C6-2	28	23521-NF5-810	0.966

※マーキング位置はメインシャフトφ17端面に電気ペンでケガキ線その他のギヤは側面に刻印されています。

1) ミッションホルダー組み付け方法

- ①クランクケースとミッションホルダーのノックピン位置を合わせる。
- ②ミッションホルダーが軽く入ったところでシフトドラムストッパースプリング (A部) をドライバー等にて持ち上げミッションホルダーを軽く叩き締め付ける。
- ③シフトスピンドルを取り付け、ミッションの作動を確認し、Rカバー及びクラッチを再組みする。



●キャブレターセッティングキット ASSY.

標準セッティング

(本セッティングは、F-IIIキットASSY.及びキャブボックスセットを組み込んだ状態でのデータです。)

《完成車》 《F-IIIノービスキット》

M J : #180 #190

J N : J 06 D - 3 段 J 06 D - 4 段

(ϕ 2.725) (ϕ 2.725)

S J : #40 #40

A S : 1 回転戻し 1 回転戻し

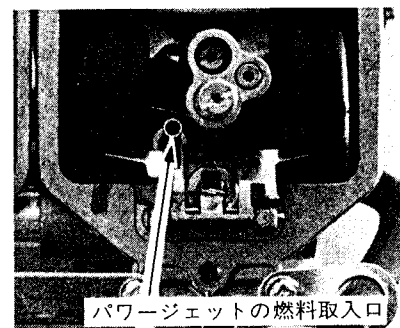
《注意》

- エアークリーナーをはずし、キットで案内されているキャブボックスセットに必ず交換のこと。
- キットで案内されているJNを使用の際、必ずジェットニードルホルダー (1616-NH3-911) に交換のこと。

F-IIIノービスキットの方は下記改修をして下さい。

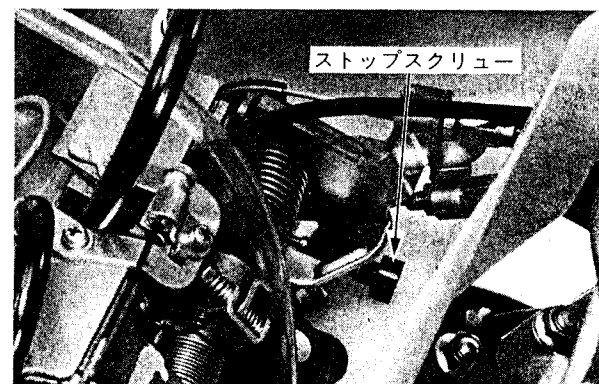
1) パワージェット

燃料取入口をエポキシ系接着剤でふさぐ。



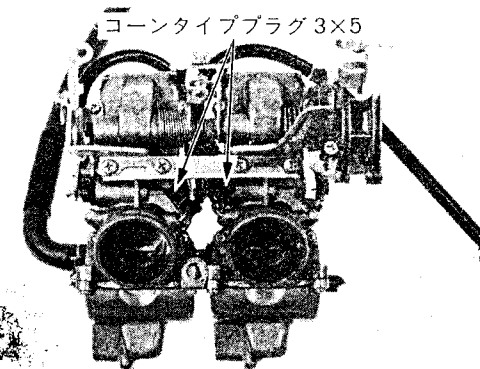
2) スロットルストップスクリュー

スロットルバルブが全閉になるように緩める。



3) オイルパステューブ

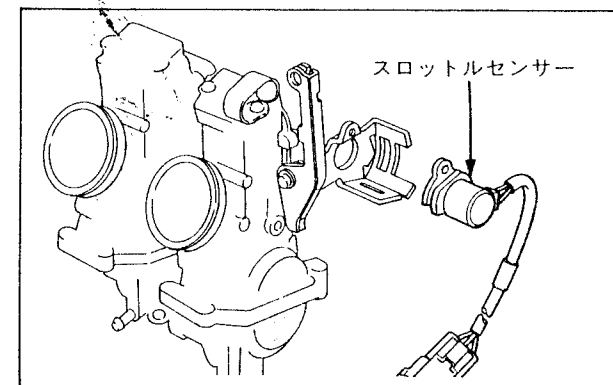
チューブをカットし耐ガス接着剤 (セメダイン540) をつけて、コーンタイププラグ 3 × 5 (96205-03005) を圧入のこと。



4) キャブ本体からスロットルセンサー取り外す。

《注意》

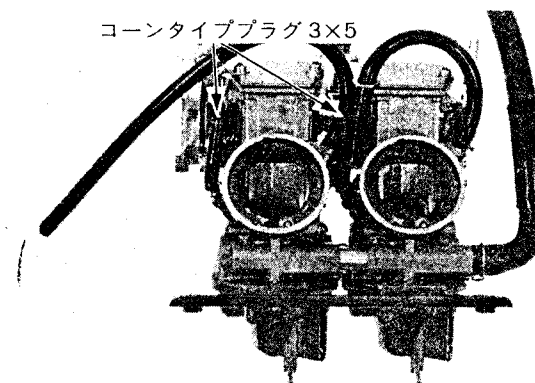
- この場合は必ずエレクトロリック SET も組み込んで下さい。
点火時期が遅れます。



5) ソレノイドのエアータューブをカットし耐ガス接着剤 (セメダイン540) をつけて、コーンタイププラグ 3 × 5 (96205-03005) を圧入のこと。

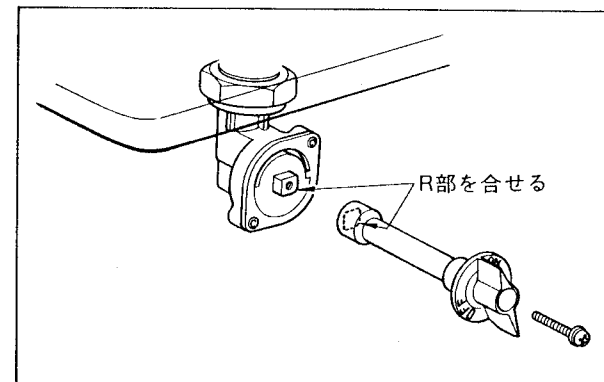
《注意》

- この場合は必ずエレクトロリック SET も組み込んで下さい。
点火時期が遅れます。



《注意》

- NSR250RK完成車に於いて下記不具合がありました。図の様にRを合せるよう修正願います。



●エキゾーストチャンバーセット

関連部品としてリヤクッションセットも交換する。

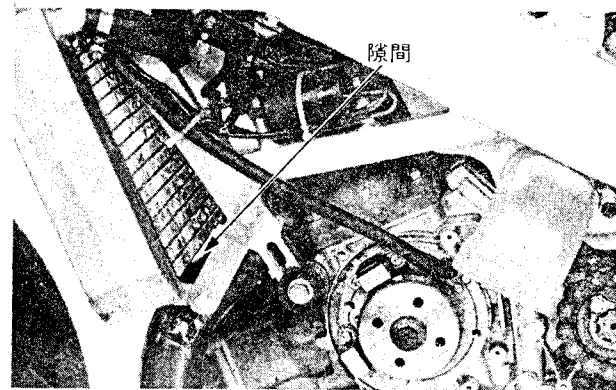
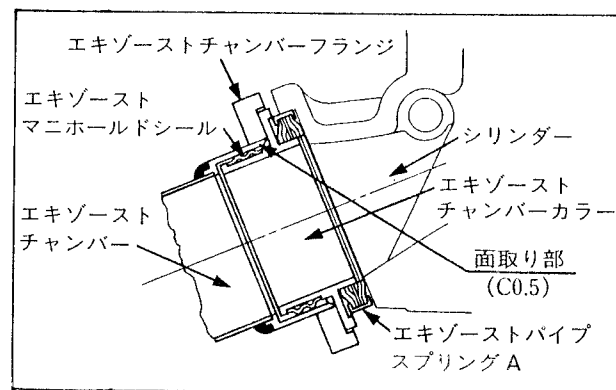
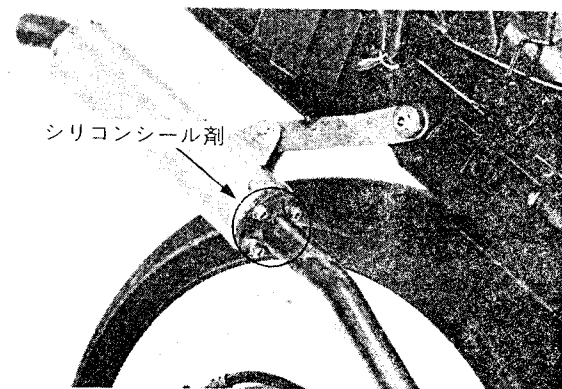
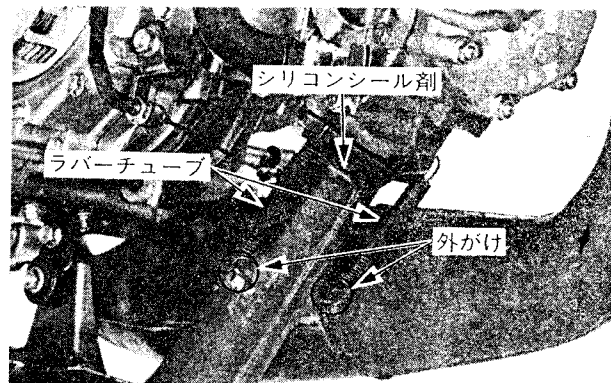
[右側チャンバー(No.2)がプロリンクと干渉するため]

1) エキゾーストチャンバー

- ①チャンバー口元、サイレンサー取り付け部及び、サイレンサー締め付けボルトねじ部には、シリコンシール剤(KE-45等)を塗布する。チャンバー口元はチャンバーカラー側に塗布するとチャンバー内のはみ出しを防げる。
- ②又取り付け時はラジエーターとの隙間を4mm以上確保し、シリンダーヘッドとも干渉のないことを確認すること。
- ③チャンバースプリングは外がけとし切損防止、防振のためラバーチューブを取り付ける。
ラバーチューブをチャンバースプリングに挿入するときは石けん水を塗って行うとよい。
エキゾーストチャンバーフランジ取り付け時に、スプリングを組み付けておく。
エキゾーストチャンバーフランジの固定はスタッドボルトを抜き、8×25フランジボルトを使う。

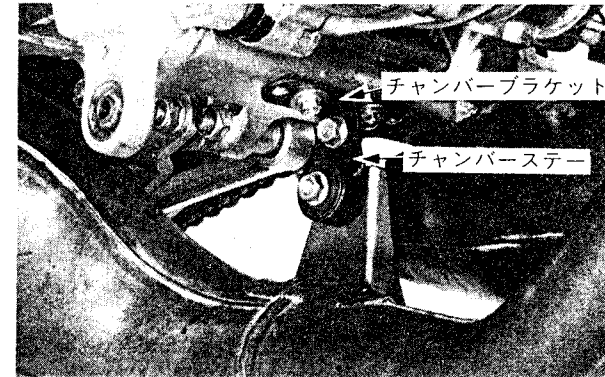
《注意》

- エキゾーストチャンバーを面取り(C0.5)すると組付性が向上する。又エキゾーストマニホールドシールを傷つけない。
- 8×25フランジボルト締め付けは左右2本のボルトを均等に交互に締めること。



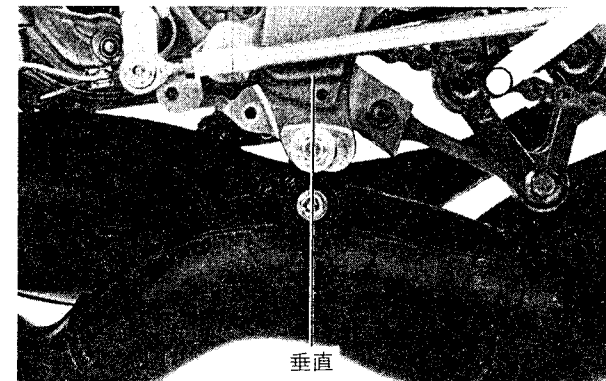
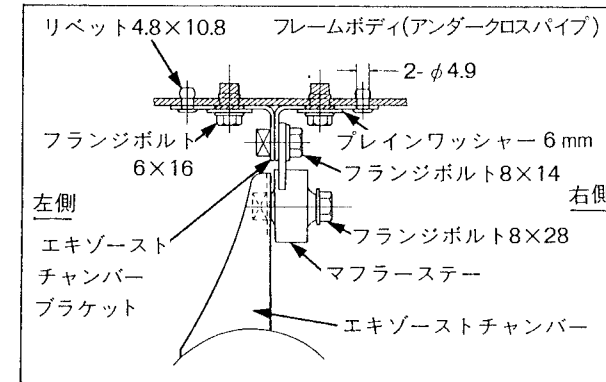
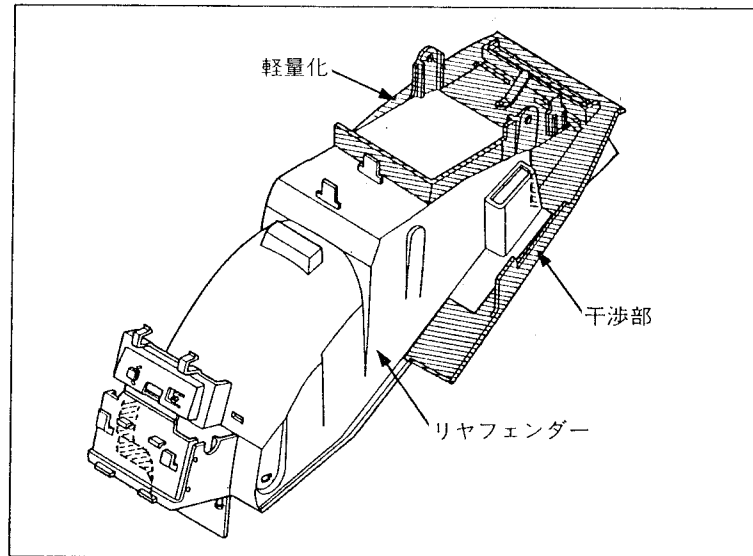
2) チャンバーステー

- ①チャンパーブラケットはフレームボディのアンダークロスパイプにカシメられている6mmナット(ベース車はローカウルアンダーステー締付け用)に6mmフランジボルトで仮付ける。
- ②チャンパー、サイレンサーを取り付け位置関係が決まった所でブラケットの6mmフランジボルトを締め付ける。
- ③その後ブラケット両端にφ5.1の穴に合わせφ4.9のドリルにてアンダークロスパイプに穴をあけブラインドリベット(4.8×10.8)にてカシめる。
- ④チャンバーステー角度は車の側面から見てほぼ垂直となるようにする。
キットのカウリングセットを取り付ける場合にはチャンバーステーを締め上げるときに手でチャンパーを押し上げて、できるだけ上側に装着するようにする。



3) サイレンサーステー

サイレンサーステーとリアフェンダーの干渉部(斜線部)はカットする。



4) サイレンサーガラスウールの交換

- ①サイレンサー後部のブラインドリベットを $\phi 8.4$ ぐらいのドリルで外す。この際、外板をいためないように表面のカシメ部が取れたら止める。ブラインドリベット 8ヶ所同じ要領で終わったらポンチ等を使い芯部を押し込み、外板部から外す。
- ②インナーパイプを引き抜き、内部のガラスウールを取り出す。
新しいガラスウールを入れる前にアルミ外板部およびエンドプレートのバリを徐去、変形している場合は形状を修正する。
- ③新しいガラスウールをインナーパイプに差し込み、そのまま外板内部に押し込む。この時入れづらい場合はガラスウール外周部を木綿糸等で巻くと入れやすい。また前側のサイレンサーマウスボディにインナーパイプが入っていること。
- ④リベット部の穴位置を合わせブラインドリベットでカシメる。

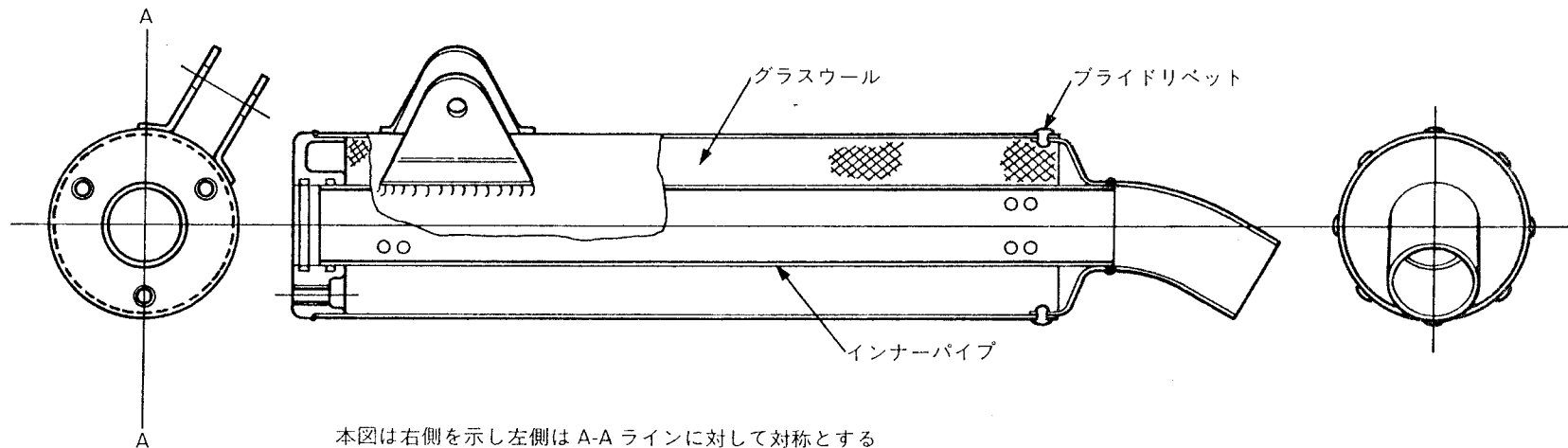
《注記》

- アルミ製リベット耐熱・耐振性が低いのでサイレンサーには使用しないこと。
- ⑤カシメが終わったら外板合わせ部をシリコンゴムでシールし、固まるまで放置しておく。

使用するシリコンゴムは下記製品が一般に市販されていますので購入して下さい。

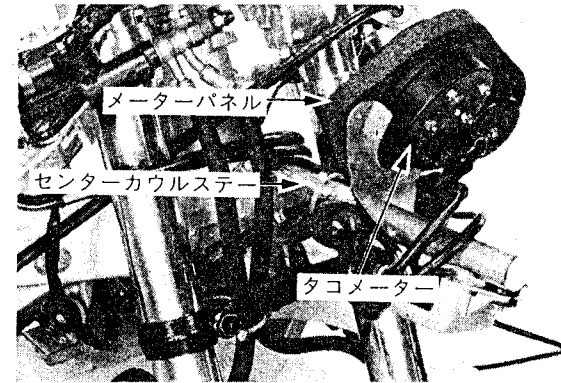
名称：信越シリコン（一液型 RTV ゴム）

品名：KE45-W（ホワイト）



●メーターセット

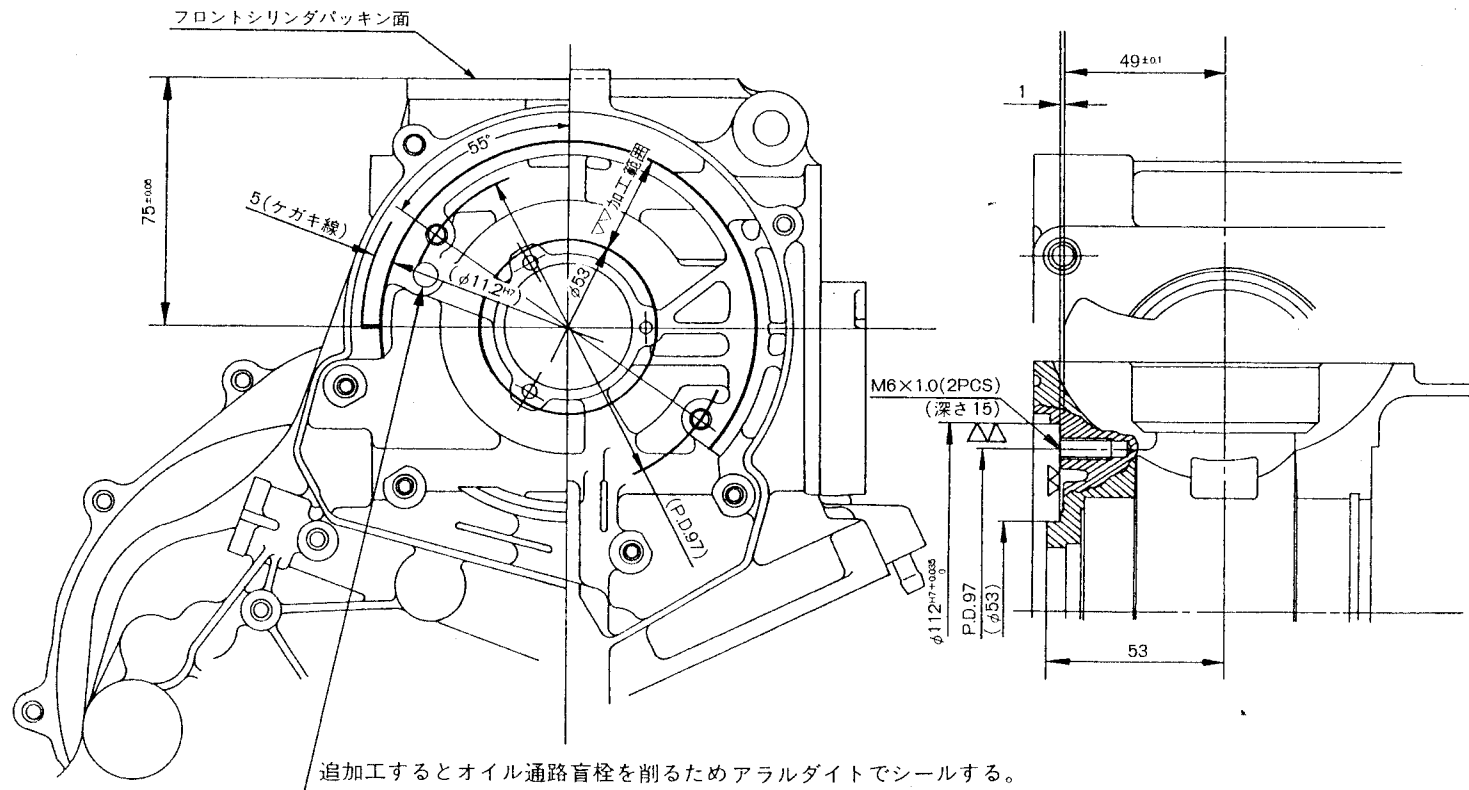
この部分はキットで案内されているセンターカウルステー (50810-NH3-900) に取り付けます。
 タコメーターはキットのC.D.Iユニットに結線できるカプラになっている。



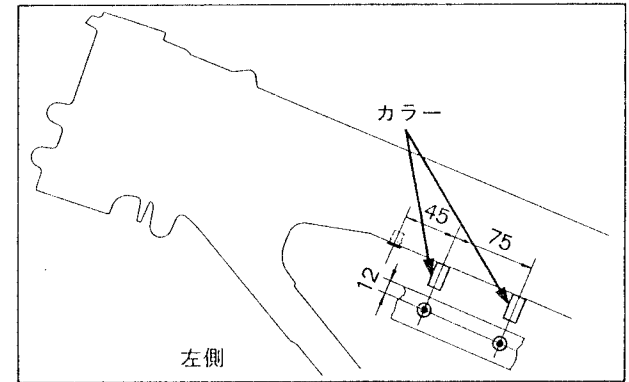
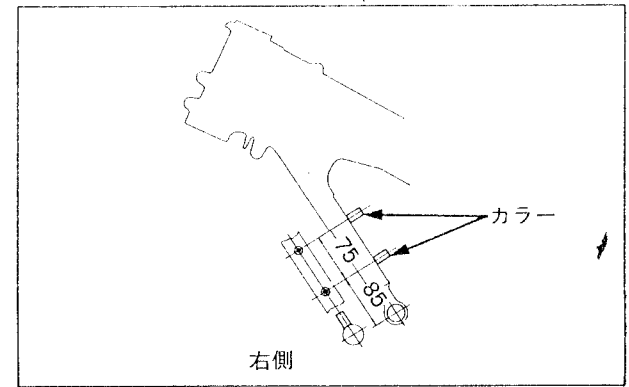
●エレクトロリックセット

1) このACGを取り付けるためにはクランクケースの追加加工が必要です。レーシングサービスショップへ相談して下さい。もしレーシングサービスショップにて加工できない場合、下記、HRCサービスショップにて加工致します。

ホンダスポーツモトバム・ホンダエンデュランス・ホンダワールド・スーパーモンキー各ショップ



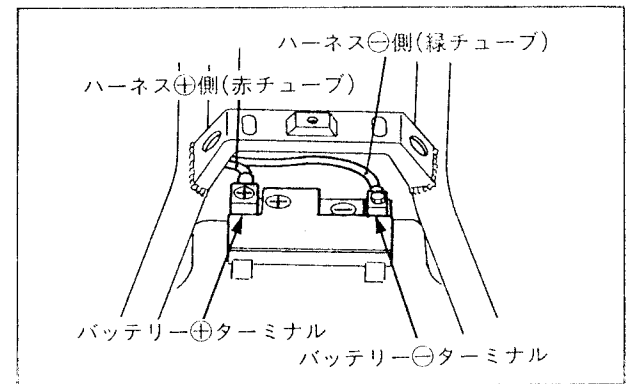
2) イグニッションコイルを取り付けるためにカラー(50139-ND5-750)をフレームボディのダウンチューブ上4箇所(右側)に溶接する必要がある。



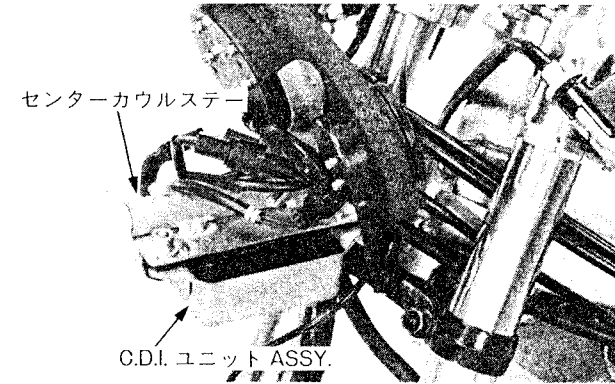
3) エレクトロリックセットを装着する場合は必ずセットに含まれているワイヤーハーネス(32100-NH3-900)を使用すること。この場合バッテリーは充電されないが、市販車に装着されているバッテリー YT4L-12B で満充電で約7時間走行可能です。バッテリーはレース前に必ず充電を行うこと。充電管理を電圧計を用いて確実にすること。

《注意》

- ワイヤーハーネスとバッテリーターミナルの接続は図のようにします。逆に接続しますと RC バルブコントロールサブユニット (31820-KV3-701) が一瞬に破損します。



4) CDI ユニット ASSY. はセンターカウルステー (50810-NH3-900) を購入の上, 取り付ける。



●点火時期

この車両は C.D.I 点火方式を採用しているため, ステーター取付時ケースのケガキ線にステーターマークの中心を合わせ, 取り付け後下記要領にて確認を行う。

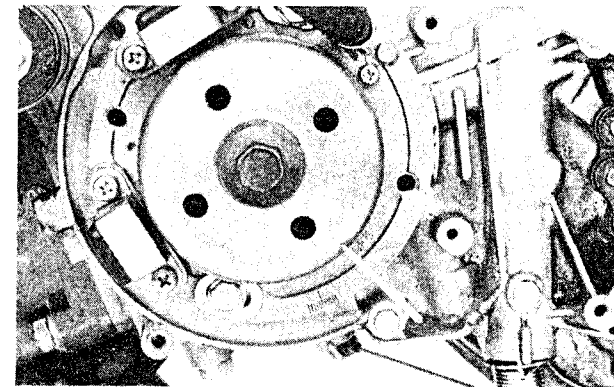
1) 点火時期確認方法

- ① トップゲージを用いて # 1 シリンダーのクランクシャフトを上死点に合わせる。
- ② 針金をクランクケースに固定し, フライホイールの「T1」マーク 0° に針金の先端を合わせる。
- ③ エンジンを始動し, タイミングライトでフライホイールを照射したとき, 針金の先端が下記内にあれば点火時期は良好である。

点火時期: $21.5^{\circ}/6,000\text{rpm}$
($15^{\circ}/10,000\text{rpm}$)

《注意》

- タイミングライトのカタログ等の回転数測定範囲を確認後, 点火時期の調整を行うこと。



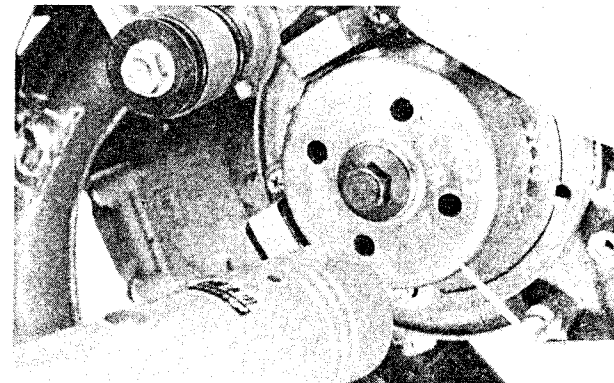
④ 範囲外にある場合は, ローターの数値に対し針金とのずれ角を計る。

⑤ ステーターをマークがずれた方向の反対方向に回す。

⑥ ステーターをボルトで締め付け点火時期を再確認する。

《注意》

- 点火装置は, ジェネレーターローター, ステーター, C.D.I ユニットの 3 点セットにして工場にて精密に調整されています。これらの内 1 点でも交換した場合は, 点検, 調整が必要です。



2) フライホイール組み込み方法

- ① #1ピストンを上死点に合わせて。
- ② フライホイールの T2 マーク側のケガキ線を真上に来るようフライホイールをセットする。
フライホイールケガキ線，ステーターコイルベースケガキ線 #1 シリンダーのセンターとが一直線になる。

締付トルク：5.5±0.5kgf・m

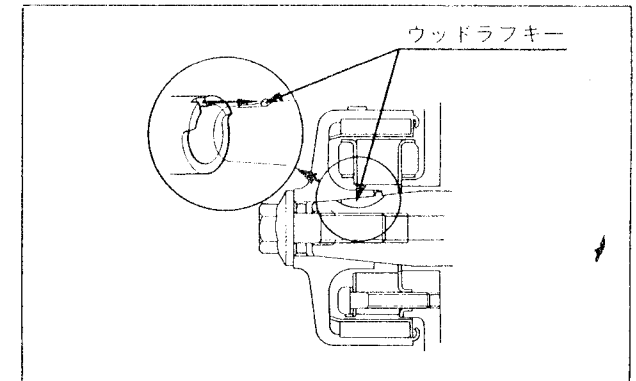
《注意》

- フライホイール組み込み時ウッドラフキーがずれてしまう場合がある。出来ればポンチ等でウッドラフキーをカシメ，動かないようにして組込むようにする。

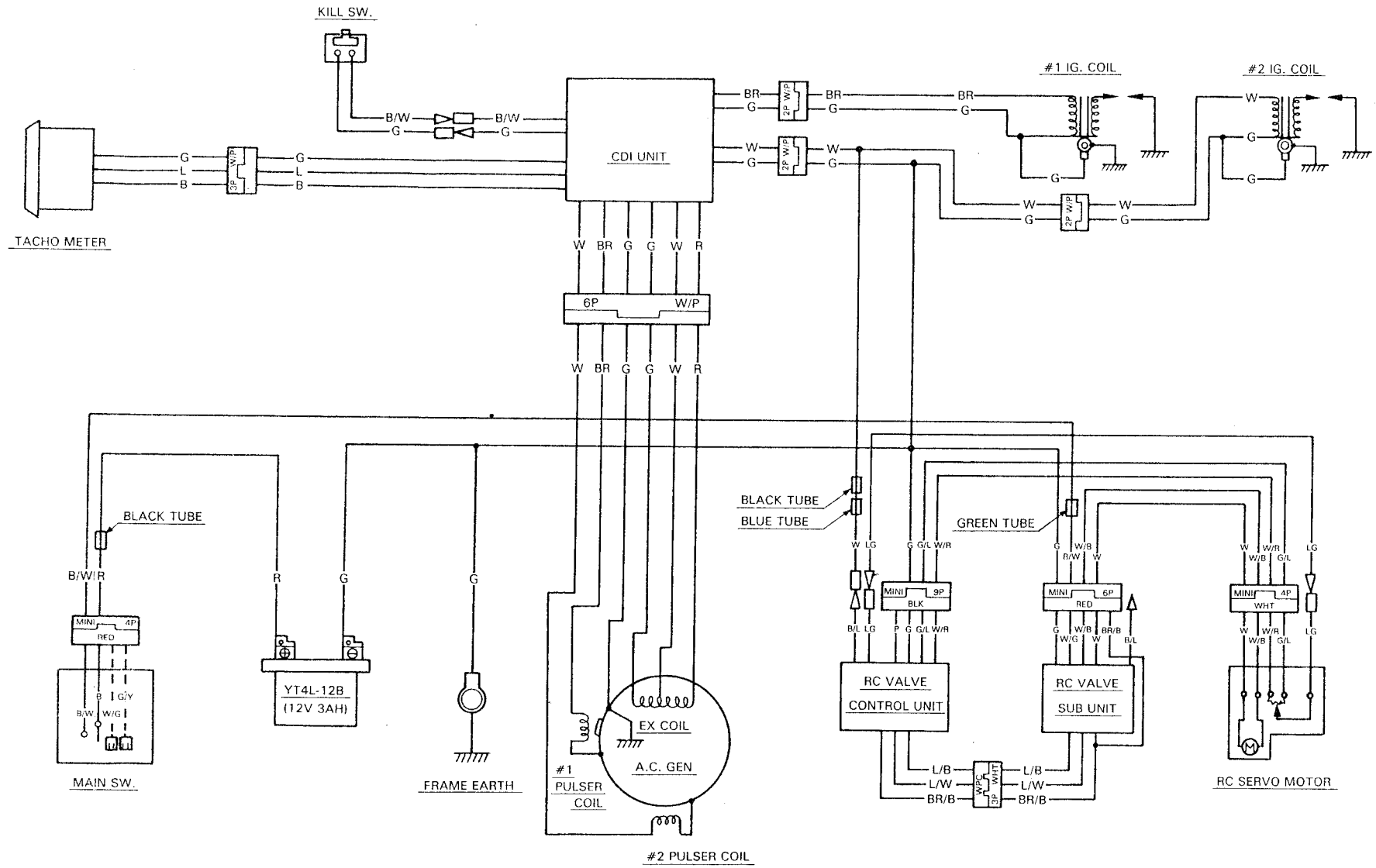
フライホイール取り付け後一度外し，キーが動いたか，傷（カジリ等）がついていないか確認して組み付ける。

※フライホイール取り外し用工具

07733-0020001 ROTOR PULLER



3) 配線図



MAIN SW.		
	IG	BAT
OFF		
RUN	○	○
CORD COLOR	B/W	B

KILL SW.		
FREE		○
PUSH	○	○
CORD COLOR	B/W	G

B	BLACK	BR	BROWN
Y	YELLOW	O	ORANGE
L	BLUE	SB	SKY BLUE
G	GREEN	LG	LIGHT GREEN
R	RED	P	PINK
W	WHITE	GR	GRAY

COLOR COMB: GROUND/MARKING

● ドライクラッチキット

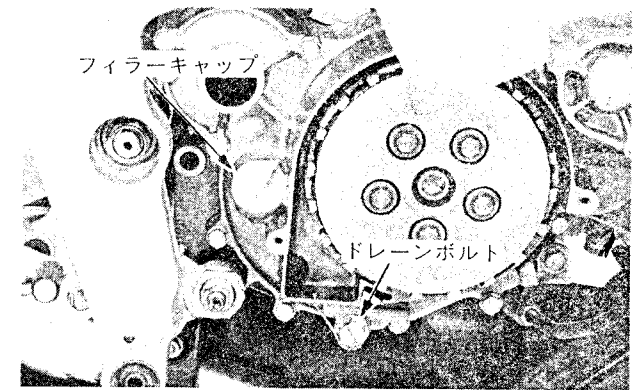
ミッションオイル量：交換時 750cc

分解時 900cc

指定オイル：ホンダウルトラ GP オイル (20W-50)

またはシェルゲルコオイル5080

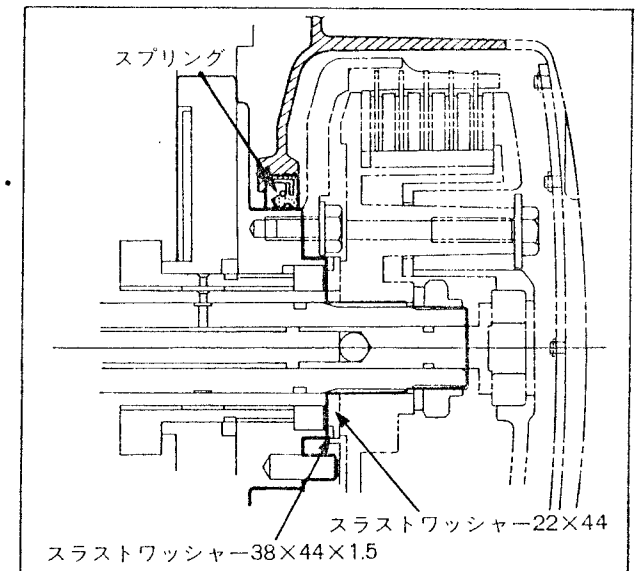
エンジンを始動し暖気運転後メインスタンド(HM08163-KT8-000)を使用し、直立状態でフィルターキャップを外す。オイルが出て来れば良い。



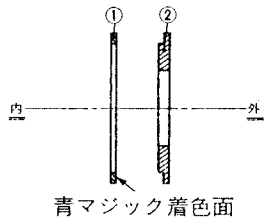
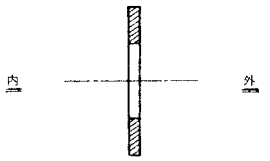
1) R カバーを組み付ける際、オイルシールのリップが反転し、スプリングがはずれる場合があるのでセンターを出しながら組み込むよう注意のこと。

2) ブレーキロッドスプリングA

クラッチケーブルに通し、Rカバーにつけるクラッチケーブルレシーバーとクラッチレバー間に直列に組み込む。



2) スラストワッシャー38×44×1.5の案内

	適用号機	物仕様	部番	名称	備考
新	FRM No.MC18-1009119 (ENG No.MC16E-1040337) }	 <p>青マジック着色面</p>	①90423-NH3-910 ②90422-NH3-910	WASHER THRUST 38×44×1.5 WASHER THRUST 22×44	・本機のスラストワッシャー38×44×1.5の交換時期は1000kmです。
旧	FRM No.MC18-1003314 (ENG No.MC16E-1034595) } FRM No.MC18-1004118 (ENG No.MC16E-1040336)			WASHER THRUST 22×44	・本機のスラストワッシャーの交換時期は1000kmです。 交換時は上記部品にして下さい。 上記部番①と②のセット部番が案内されてます。 90421-NH3-305 WASHER SET THRUST ・本ワッシャーは廃止です。

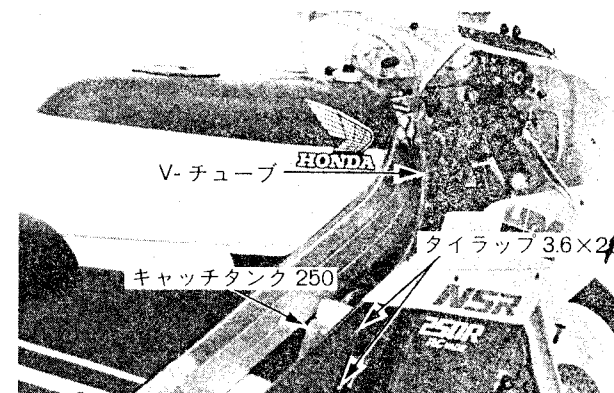
《注意》

- ・ No.①は方向性があるので注意のこと。
- ・ 組み付けの際、No.①のワッシャー青マジック面にグリースを少量塗布し、No.②のワッシャーに貼りつかせる。

●フューエルキャッチパーツセット

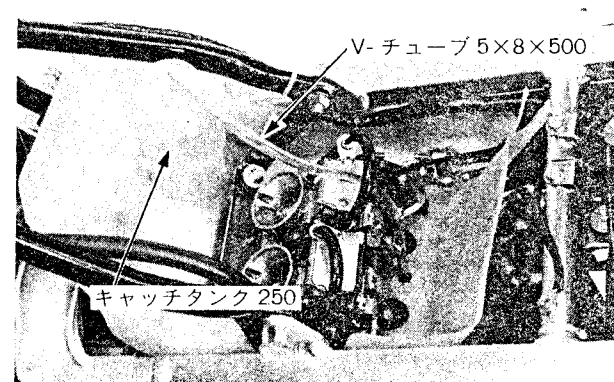
'87 FIM/MFJ レギュレーション改正に伴いフューエルタンクブリーザーのキャッチタンクを装着することが義務付けられている。

R サイドカウルのラジエターのエア抜きダクト後方にφ4穴が4ヶ所あいているのでタイラップ2本で固定する。



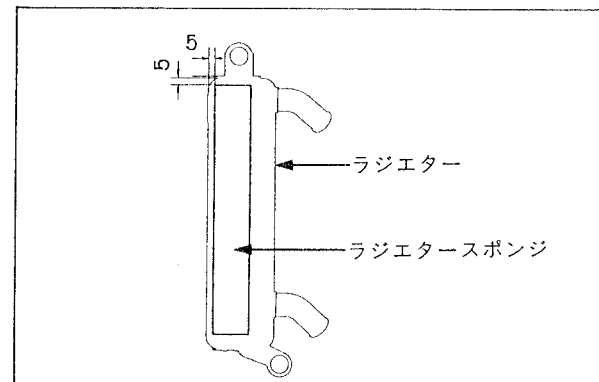
●オイルキャッチタンクセット

ミッションブリーザーキャッチタンクはキャブボックス内、左後にタイラップ止めにする。ブリーザーホースの取り廻しはワイヤリングイラストを参照のこと。

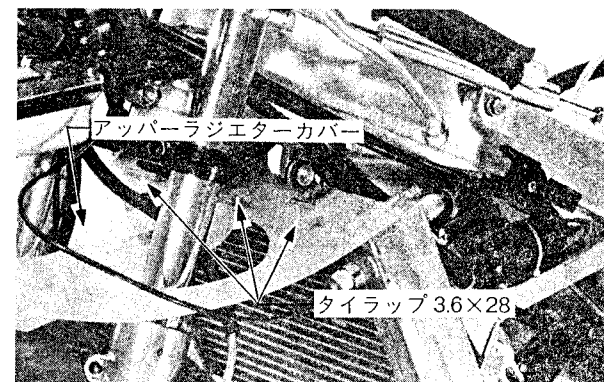


●ラジエターセット

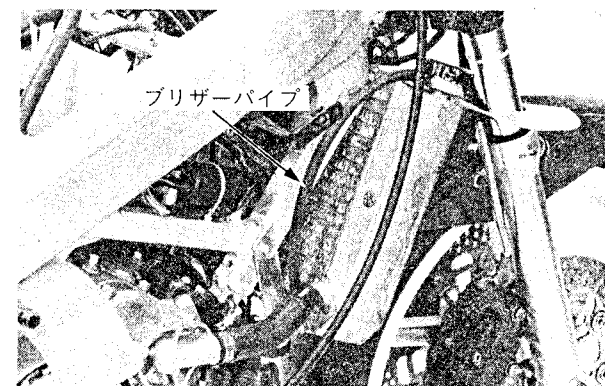
1) ラジエターの冷却風が漏れるのを防ぐためラジエター側面に接着剤でスポンジを貼る。ローアカウルとラジエター側面とのクリアランスが少なく、カウルセット時にカウルが引っかかりはがれる恐れがある。このためスポンジはラジエター側面を下側に巻き込むように貼る。



2) アップーラジエターカバーはラジエターとカバーにあいているφ4穴6ヶ所を使い3本のタイラップ 3.6×281にて取り付け。

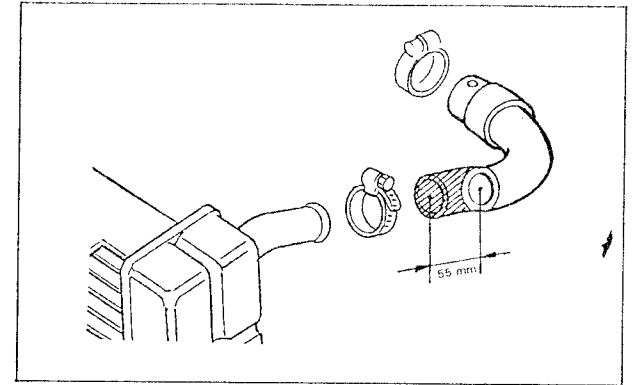


3) ベースのラジエターのリザーブタンクは外しブリーザーパイプはベースを流用し長さを400mmでカットしカウルの内側にたらす。但し4H耐久用にはRS125Rのキャッチタンクを流用、取り付け、冷間時リザーブタンク内の冷却水を吸い込むようにする。

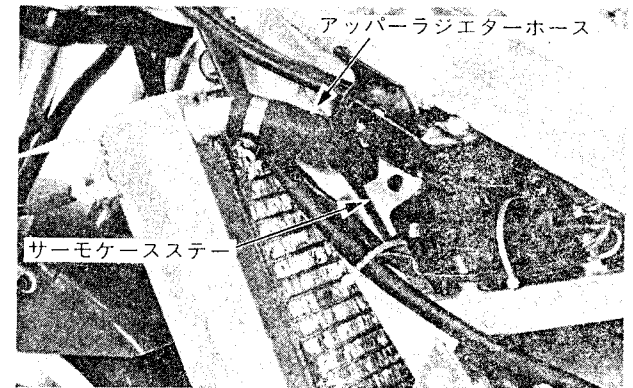


4) ウォーターホース

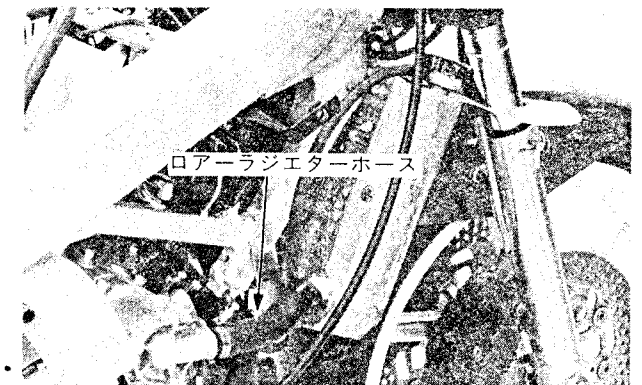
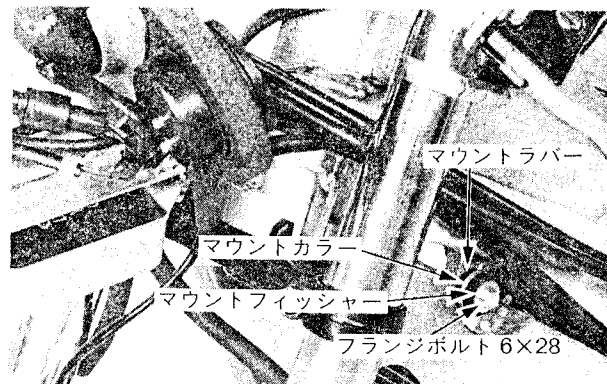
- ①サーモスタット，ラジエター間のアッパーラジエターホースはベース車のものを短く切断して使う。
切断寸法は右図参照。



- ②サーモスタットケースのスタットボルトは抜いてセット内のフランジボルト 6×12でサーモスタットケースステーを取り付ける。またこのステーは左側ダウンチューブの上側 6 mm ナットに取り付ける。
- ③フロントシリンダーヘッドとサーモケース間のウォーターホースはラジエターと干渉しない位置で固定する。
ウォーターポンプとラジエター間のローラジエターホースをとめるホースバンドは内側上方よりの締め付けとする。尚ホースには $\phi 5$ 相当の白色マーキングがついている方をウォーターポンプ側に組み付ける。



- ④ラジエターアッパーマウント用のマウントラバー，カラー等はベース車のパーツを流用する。

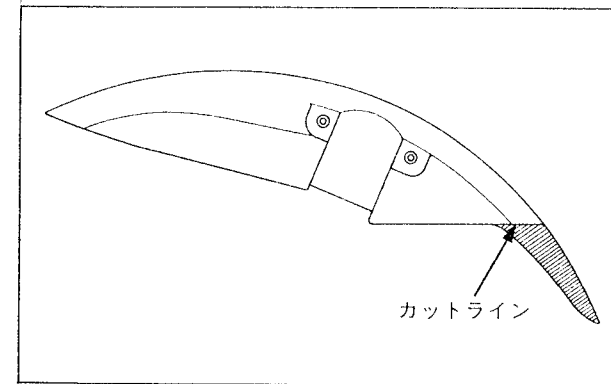


5) フロントフェンダー

ラジエターと干渉する為、カットする。

《注意》

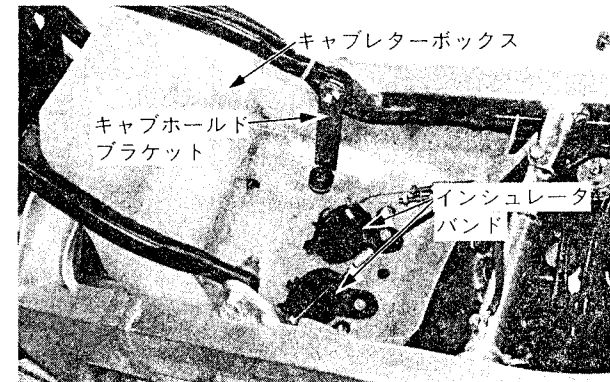
- ラジエターへの冷却水の補給時、エアー抜きは、マシーンを3~4回左右に倒し、エアー抜きする。



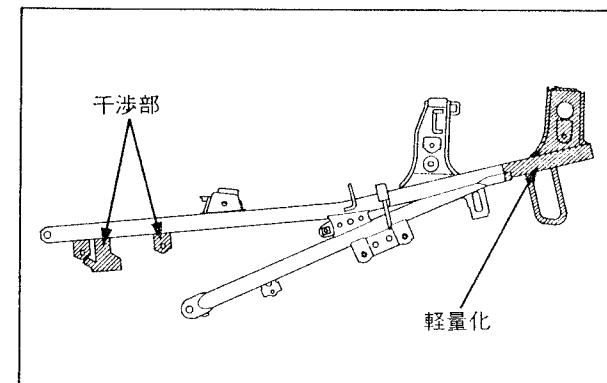
●キャブレターボックスセット

1) キャブレターボックス

- ①キャブレターボックスはエンジン側に密着する様に取り付けキャブインシュレータバンドでおさえる様にする。この時インシュレータバンドは締め付けビスが前側でキャブボックスの横の穴から締められる位置になるようにすること。



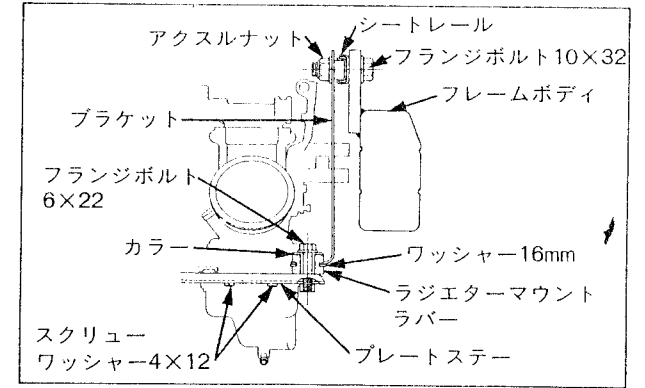
- ②キャブレターボックスとシートレール干渉部(斜線部)はカットする。



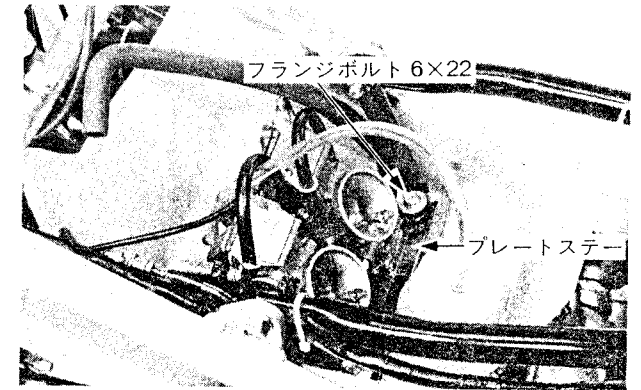
2) R/L キャブホールドブラケット

R/L キャブホールドブラケットは曲げ形状により R/L の差があります。R または L の識別マークが刻印されている。

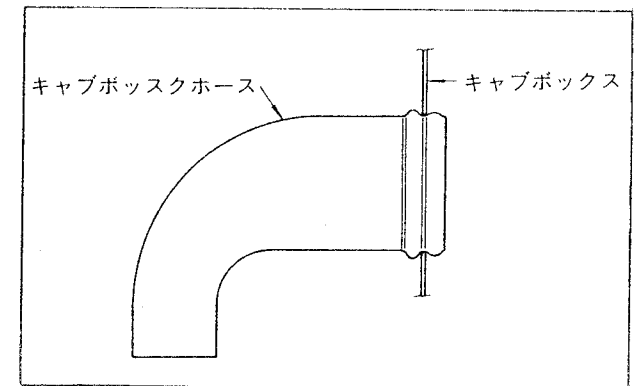
取付けは、キャブ側から取付け16 mm ワッシャーをグロメットに取付ける位置は図に合わせる。フレームボディにシートレール (アッパー) を取付けているフランジボルト10×20の代わりにキットのフランジボルト10×32 を使用し図のように締付ける。



- 3) プレートステーはベース車に組み込まれていたものを外しキットのパーツに組換える。
この時フロートチャンバーのビスは4×12に交換すること。



- 4) キャブボックスホースの差し込みは図の位置までとする。



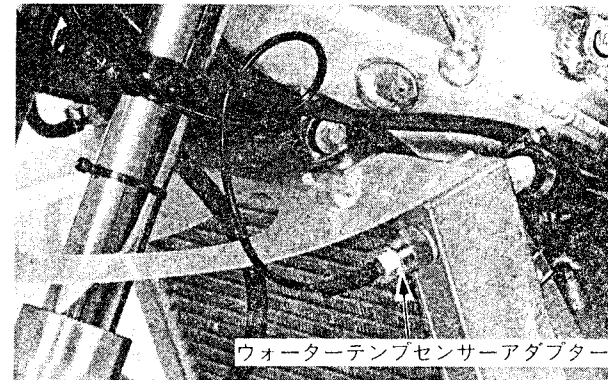
●ウォーターテンプメーターセット

関連部品として、ラジエターセットも交換する。

ウォーターテンプセンサーアダプターはキットのラジエター左上、M16×1.5に取付ける。

《注意》

- ウォーターテンプセンサーアダプターを取外す時は、メーターをパネルから取外し、ねじらない様にする。



●フロントブレーキホースセット

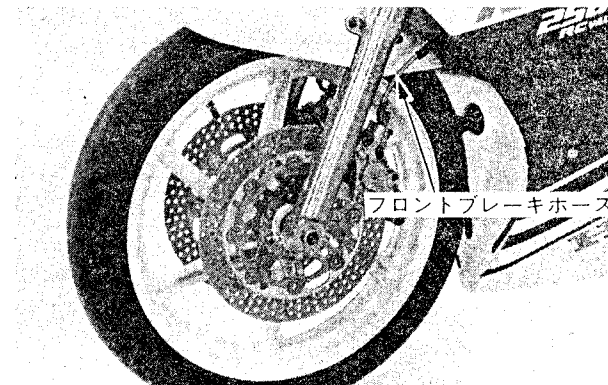
R. フロントブレーキホース

全長：530 mm, ホースエンド：ストレート/60°

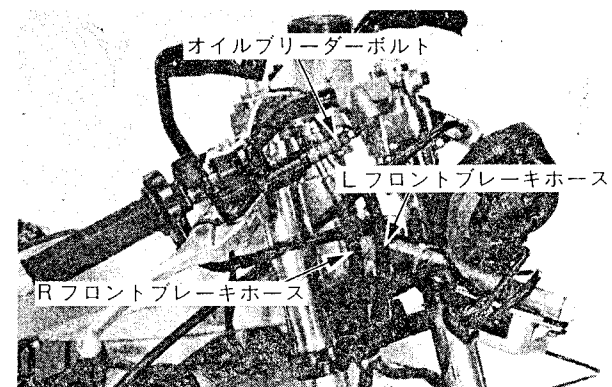
L. フロントブレーキホース

全長：630 mm, ホースエンド15°/60°

※R/Lともホースエンドの60°側をキャリパー側に取付ける。



- ① またブレーキオイルボルト内のエア抜きができるようにオイルボルトにブリーダスクリューが組込まれているオイルブリーダーボルトに交換すること。
- ② R/Lブレーキホースはフロントフォーク屈伸時他のパーツと接触（特にフロントタイヤ）したりせぬようボトムブリッジにタイラップ等で止める。
- ③ ベース車のキャリパー側に組込まれているブレーキホースジョイントは使用しないで取外す。



●バックステップセット

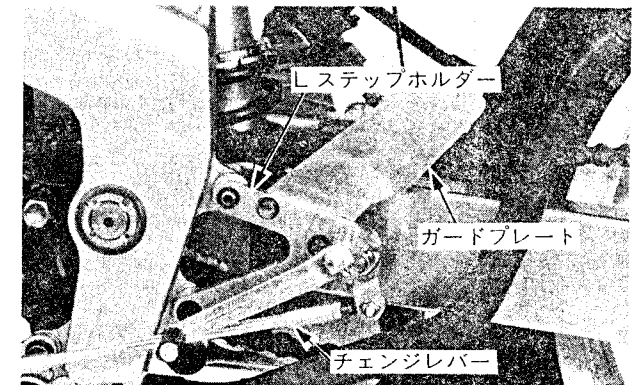
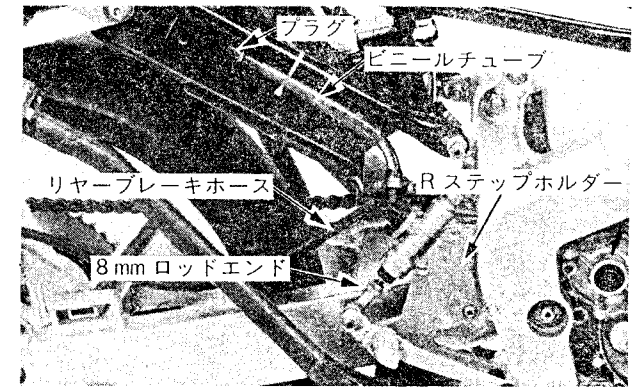
1) ステップホルダー

- ①R/L ステップホルダーの下側, 締付けにはフレームボディとの間に 8 mm スラストワッシャー(90465-422-000)をはさむこと。
- ②ステップ位置はベース車に対し前に 8 mm, 上に 12 mm 変えてある。
- ③リヤブレーキマスターシリンダーはベース車を流用し, マスターシリンダープッシュロッドに 8 mm ロッドエンドを組込む。このプッシュロッドの長さによりブレーキペダルの高さが変わるので好みのポジションに合わせる。
- ④またリヤブレーキオイルカップおよびホースの代わりに 200 mm のビニールチューブを使用する。このビニールチューブには油面表示はないが上端から 20mm 位を標準レベルとする。尚ブレーキパッドが摩耗してくるとビニールチューブが変形したりリヤブレーキペダルの遊びが大きくなる。チューブ先端のプラグを外しチューブの変形を修正しオイルを補充する。

ブレーキオイル：DOT 4

ビニールチューブは自然硬化しますので半年に一度は交換すること。

- ⑤ブレーキホースとリヤフェンダーの干渉部 (斜線部) はカットする。
又, 不用部分もカットのこと。(20頁参照)

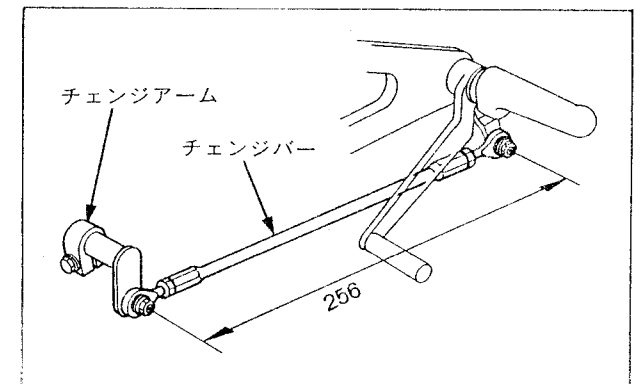


2) チェンジアーム

チェンジアームの取付けはレーザーパターン (1 アップ 5 ダウン) 時は割り面をシフトスピンドルのポンチマークに合わせる。

3) チェンジバー

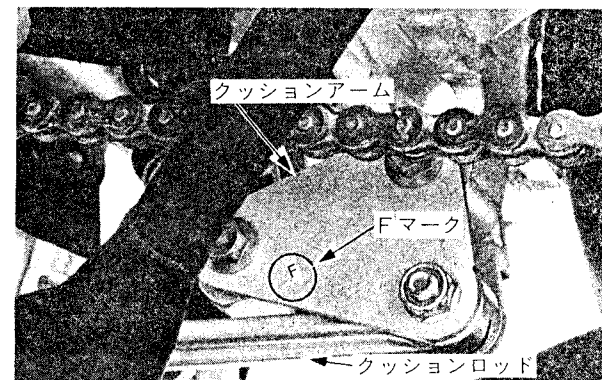
標準長さ：256 mm



●リヤクッションセット

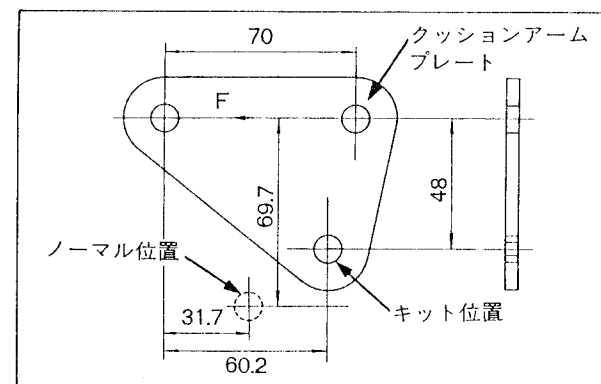
1) プロリンク

- ①クッションロッドはベース車の 110 mm からキットは 122 mm に長くなっている。
- ②また取付け巾も 39 mm から 24 mm に狭くなっているので、フレームボディ側に取付ける時クッションロッドカラー B を右側に組込みます。
- ③クッションロッドのピロボールは慣らしをしていません。必要に応じて慣らしをして下さい。
- ④クッションアームプレートは R/L および方向性があります。必ず F マークが前になるよう組付けて下さい。
- ⑤クッションアームプレート下側のボルトは必ず右側から通すこと。



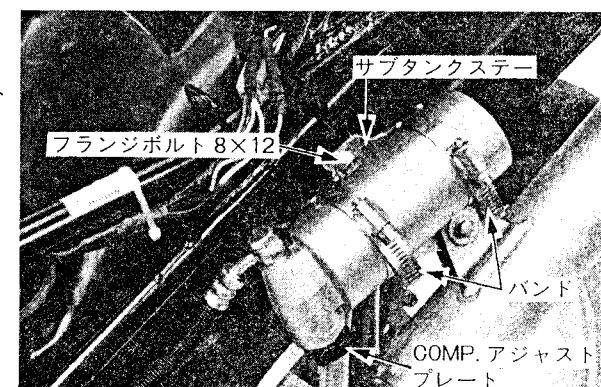
2) クッションアームプレートは図のようにベース車とキットでは位置をかえている。

従ってクッションロッド、クッションアームおよびリヤクッションはベース車の部品とキット用部品の混用はしないこと。



3) リヤクッション

- ①リヤクッション取付用のアッパー、リヤのボルト、ナットはベース車の部品を流用する。
- ②サブタンクは、サブタンクステーをベース車の L. ピリオンステップホルダーが取り付けられていたシートレールの 8 mm ナット (後側) にフランジボルト (8 × 12) で取付けます。
- ③サブタンクはバンドで、COMP 側アジャストプレートが下側に向くよう取付けること。



①リヤークッションの調整

①リヤークッションスプリング

スプリングアジャスターは1回転で1.5mm伸縮する。

オプションのスプリング (K=7.2kgf/mm および7.8kgf/mm) が用意されています。(パーツリスト参照下さい。)

②減衰力調整

TEN (テンション) 側減衰力はリヤークッション下側のアジャスタープレートで行なう。

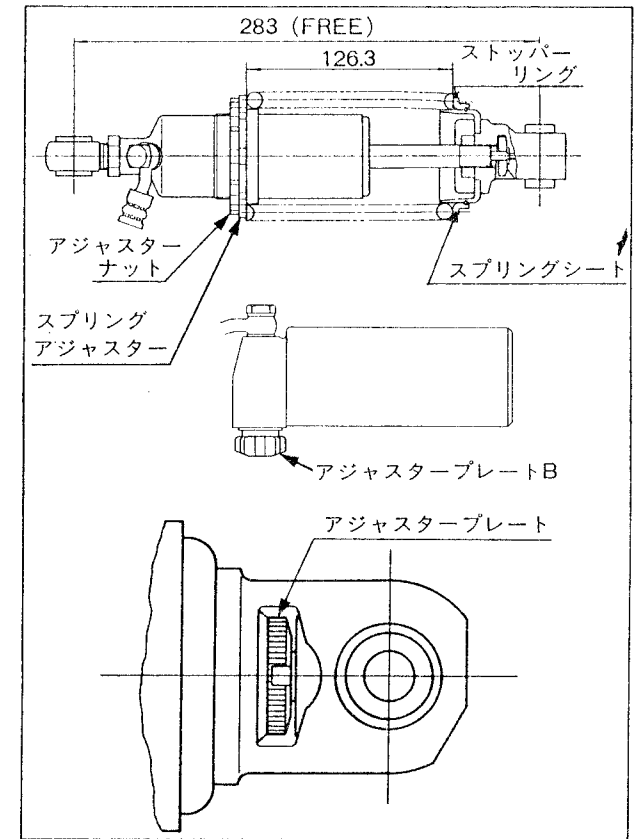
COMP (コンプレッション) 側減衰力はリヤークッションサブタンク側のアジャスタープレート Bで行う。

③車高調整

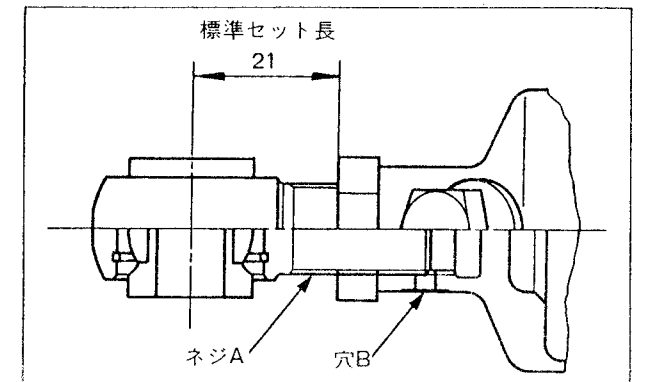
リヤークッション上部のアップパーメタルにて調整する。

調整範囲は+5mm から-3mm とする。尚最伸時、ねじAが穴Bより見えることを確認すること。調整後ロックナットの締付けを忘れないこと。

締付トルク：8 kgf・m



項目	NSR250RK 完成車セッティング仕様	推奨セッティング仕様	OP.リヤークッション スプリングでのセッティング	OP.2リヤークッション スプリングでのセッティング
1 リヤークッション スプリングバネ定数	6.7kgf/mm	6.7kgf/mm	7.2kgf/mm	7.8kgf/mm
2 リヤークッション スプリングイニシャル	14mm (セット長125.3) (スプリングアジャスター 1回転で1.5mm)	17mm~18mm (スプリングアジャスター 2回転締め込む)	16mm	15mm
3 減衰力 伸び側	最強から5ノッチ戻し	最強から8~10ノッチ戻し	最強から7ノッチ戻し	最強から6ノッチ戻し
4 減衰力 縮み側	最強から6ノッチ戻し	最強から6ノッチ戻し	最強から6ノッチ戻し	最強から6ノッチ戻し



2) リヤークッションスプリング交換

- ①リヤークッションをフレームボディから外す。
- ②スプリングの上側にあるアジャスターナット、スプリングアジャスターをスプリングがガタガタになるまでゆるめる。
- ③スプリング下側のスプリングシートを上にはずらすとストッパーリングがでてきますのでストッパーリングを外しスプリングシート、スプリングを抜き出す。
- ④必要なスプリングに交換する。
- ⑤逆の手順に従って組付ける。

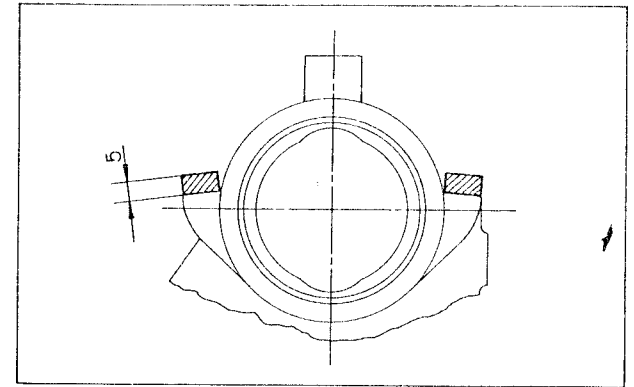
●ステアリングダンパーセット

1) ハンドル切れ角の改修

ハンドルの切れ角が、片側 20° ～ 21° になるように改修する。(右図)

《注意》

- キットで案内されているセンターカウルステー (50810-NH3-900) を使用の場合は改修の必要ない。



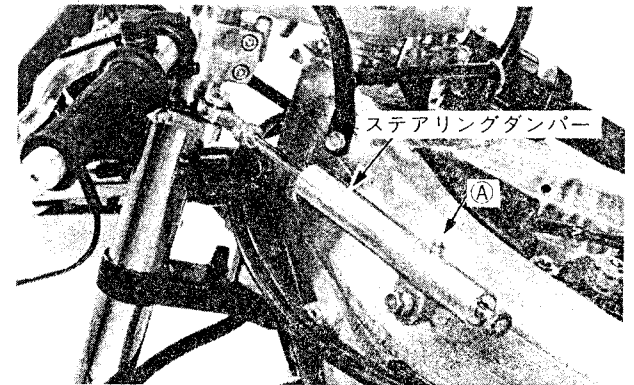
2) 取付け

写真を参考に取付ける。

フレームに取付ける際ピストンロッド摺動部にキズ、打痕等をつけないよう注意して扱うこと。

オイル漏れの原因になります。

ステアリングダンパーは分解しないこと。(ボルト①も含む)



①減衰力調整方法

①ピストンロッド先端部のダイヤルにより調整する。

右回し (H 側) いっぱいで最強となる。逆に左回し (S 側) いっぱいで最弱。それ以上無理に回さないこと。

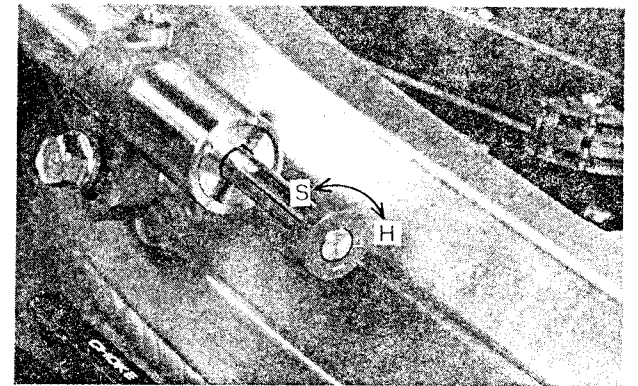
②最強と最弱の間に細かい節度が 15 ± 2 クリックがあるので適切なクリックで使用する。

標準クリック：最強 (H 側) より5クリック

(但し右回転いっぱいのクリックを“1”とする)

《注意》

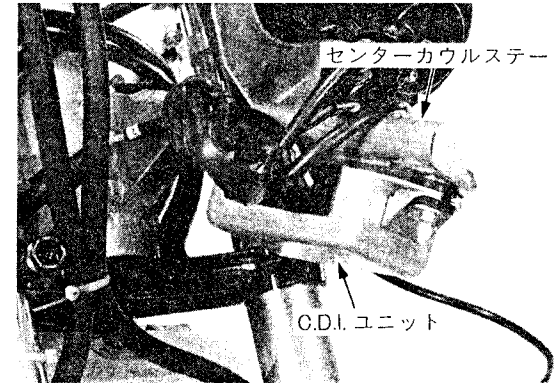
- ステアリングダンパーのセッティングは必ず標準位置から始めること。



●カウリングセット

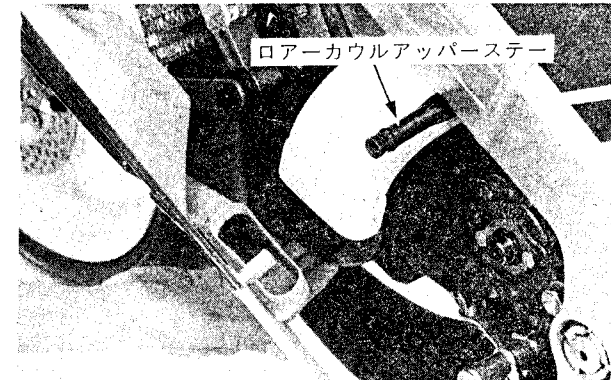
1) フロントカウルステー

- ① ベース車のフェアリングメインステーを外しキットのセンターカウルステーを取り付ける。
- ② このセンターカウルステーはハンドル切れ角も少なくなるようにストッパーが一体化している。
- ③ エレクトリックセットのC.D.I.ユニットはコード出口が右側になるようにカウルステー下側に取り付ける。
- ④ フェアリングサブステー・R/L アッパーカウルサブステーはベース車を流用する。



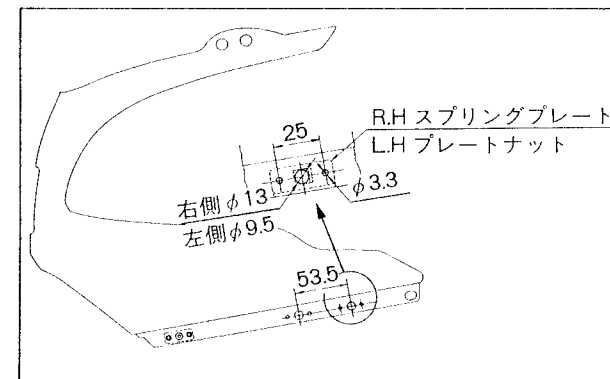
2) ロアークウルアッパーステー

- キットのR/L ロアークウルアッパーステーと組み換える。
- ベース車のロアークウルアンダーステーは使用しないで取り除く。



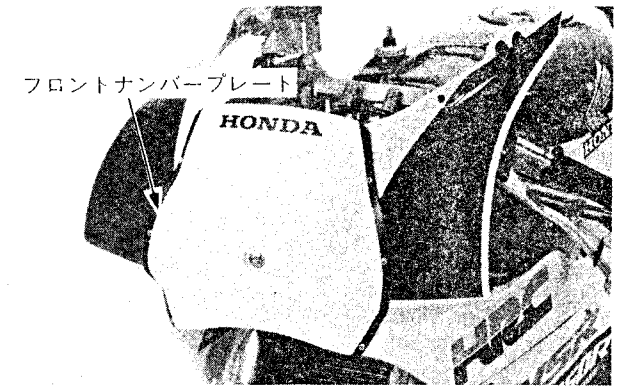
3) フロントカウル

- ① R/L 中央のファスナーズプリングとナットは取外し、53.5 mm 後方にずらした位置につける。
- ② 右側はプレートスプリング用としてφ13 (スタッドのリテーナーが逃げるように)、右側は6 mm ナットプレート用としてφ9.5をあける。
- ③ プレートスプリング、6 mm ナットプレートを取付けるリベット穴はφ3.3を25 mm の間隔であける。



4) フロントナンバープレート

- ④ ベース車のフロントアッパーカウルとウインドスクリーンを取付けているスクリーンセットピンとスピードナットを前側2本外す。
- ⑤ この穴にフロントナンバープレートの上側2ヶ所の $\phi 4.1$ 穴に3×12パンスクリューと3mmプレインワッシャーを外側から通し内側から3mmプレインワッシャーおよび3mmセルフナットにて仮付けする。
- ⑥ フロントナンバープレートの下側にあいている $\phi 3.3$ 穴2ヶ所をアッパーカウルに合わせドリル $\phi 3.3$ 穴あけ、同様に取付ける。
- ⑦ 4本共増締めする。

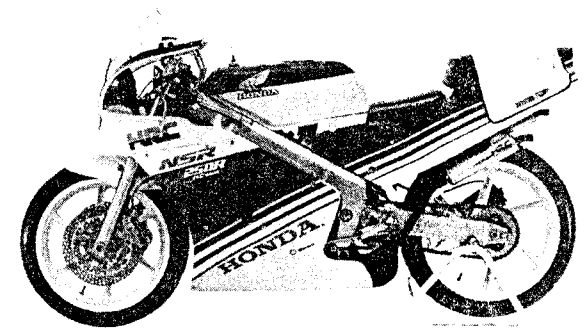


5) アンダーカウル

アンダーカウル内側でチャンバーに近い部分に断熱材を貼る。

6) シートカウル

シートカウルマウント部のクッションラバーはベース車のR/Lサイドカバーから外して使用する。



●フロントホイール ASSY

オプションとして専用のホイールが用意されています。(パーツリスト参照下さい。)

●リヤホイール ASSY

1) ドライブチェーン

ファイナルレシオによってチェーンのリンク数が変わります。

下の表を参照の上選択下さい。

40520-NF2-003	520TR-106L	大同	スプリント用
40530-NF5-003	520TZ-108L	高砂	スプリント用
40530-NE5-003	520VS-108L	大同シールチェーン	耐久用
40540-NF2-003	520VS-106L	大同シールチェーン	耐久用
40531-NE5-000	DID520VS-CLIP	シールチェーン用クリップタイプ	
40532-NE5-000	DID520VS-STAKE	シールチェーン用カシメタイプ	
40536-ND5-751	DID520TR-STAKE	大同スプリント用カシメタイプ	

2) リヤブレーキキャリパーブラケットとブレーキディスクの隙間を確認願います。

0.5 mm 以下の場合斜線部を 1 mm 削って下さい。

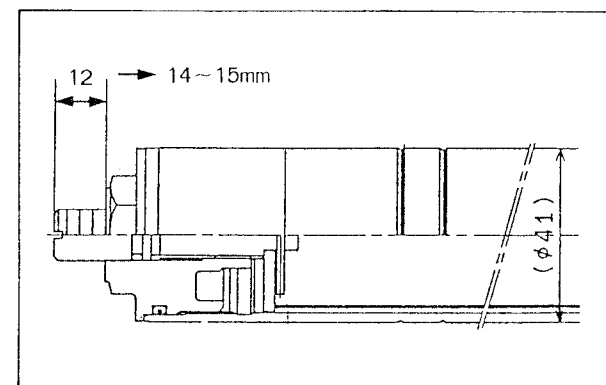
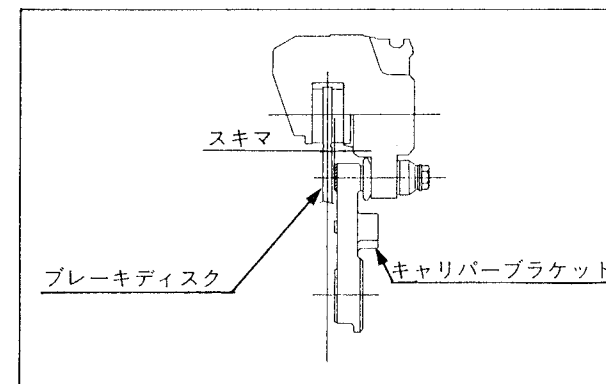
●フロントフォーク ASSY.

1) フロントフォークは、NSR250RK完成車の時にはフリクション（摩擦）が大きく作動性が悪い事があります。この時、リヤクッションは、下表の如く“推奨セッティング仕様”にして、フロントフォークオイルを“ウルトラクッションオイル5号（SS7号）”に変更して頂下さい。

アタリがついて、ウルトラクッションオイル5号（SS7号）では、減衰力不足を感じるようになったらフロントフォークオイルをウルトラクッションオイル10号（SS8号）に戻して配車時セッティングにして下さい。

項	目	NSR250RK完成車セッティング仕様	推奨セッティング仕様
1	フロントフォーク突き出し	5.5 mm	14 mm
2	フロントフォークスプリング イニシャル (アジャスター突き出し量)	12 mm (注記)	14~15 mm
3	フロントフォークオイル	ウルトラクッションオイル10号 (SS8号)	←
4	フロントフォークオイルレベル	150 mm	←

	DRIVE	14T	15T
DRIVEN			
37T		106L	106L
38T		106L	106L
39T		106L	108L
40T		108L	108L
41T		108L	108L
42T		108L	108L



2) フロントフォークスプリング

バネ定数	部番
0.65-0.90	51401-NH3-901
0.70-0.95	51404-NH3-901


《注意》

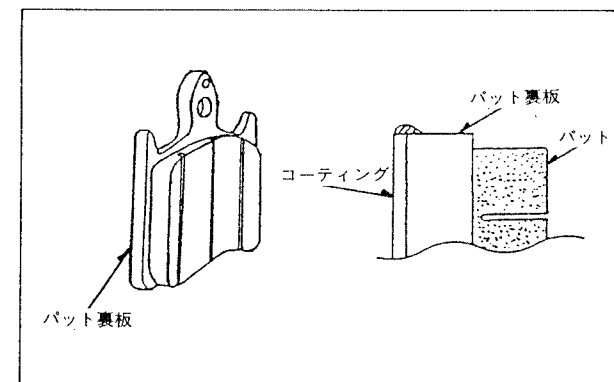
識別用のマーキングをして組み込むこと。

- 3) オプションとして、フロントフォークボトムケースのオイルドレーン用としてワイヤーロック用の穴付きボルト (90107-NF4-003) が用意されてます。(パーツリスト参照下さい。)

●フロントキャリパー

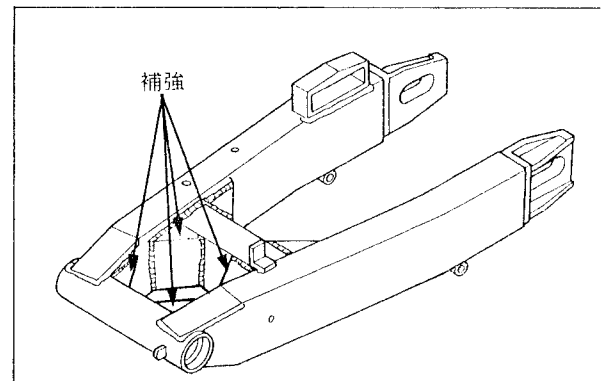
ベース車に対して、パッドのみ異なる。

- 1) 粗やすり又はスクレパーにて  のコーティングを落とす。 (前後とも修正)
修正後パッドがスムーズに動くことを確認し組付ける。
- 2) 放熱性アップのためキャリパーについているカバーはとる。



●スウィングアーム ASSY.

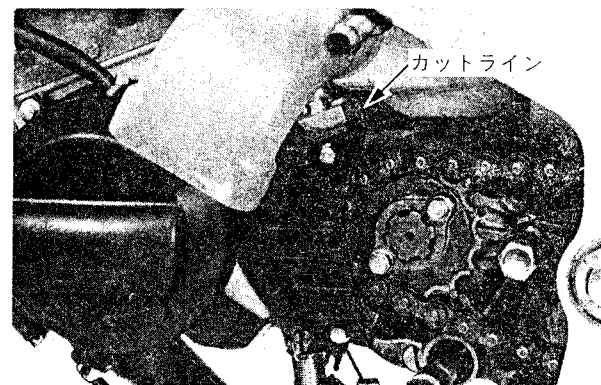
ベース車に対して補強をしてある。



●その他オプションパーツ

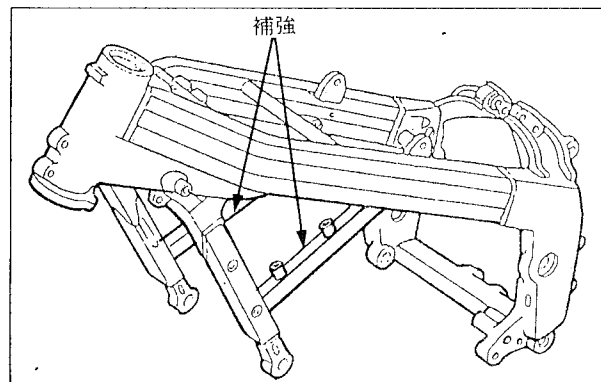
1) Lケースカバーはドライブsprocketのメンテナンス作業をやり易くする為、矢印部の線でカットする。

2) オプションとして専用のリヤマスターシリンダカップが用意されています。(パーツリスト参照下さい。)

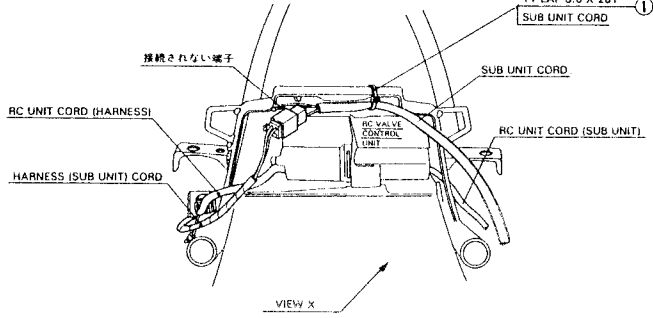
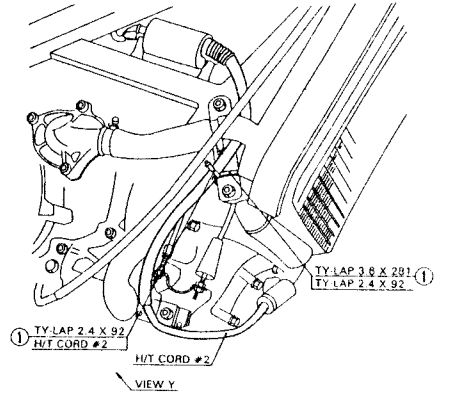
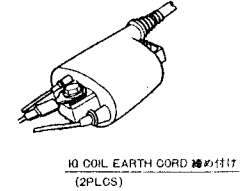
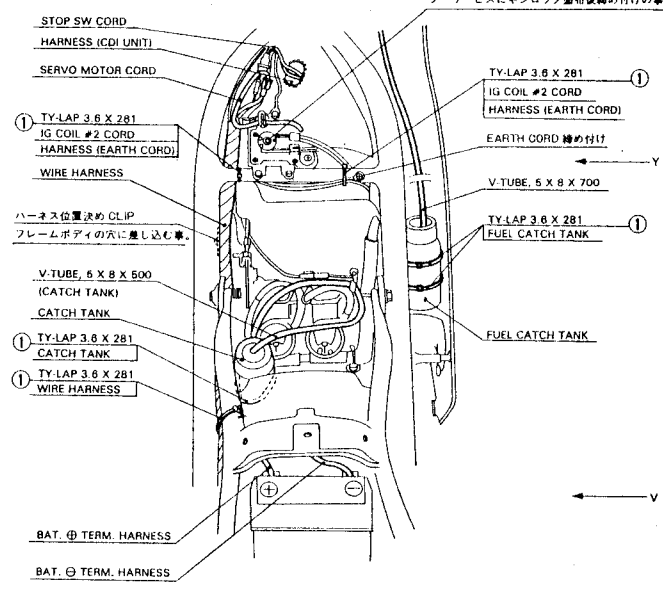
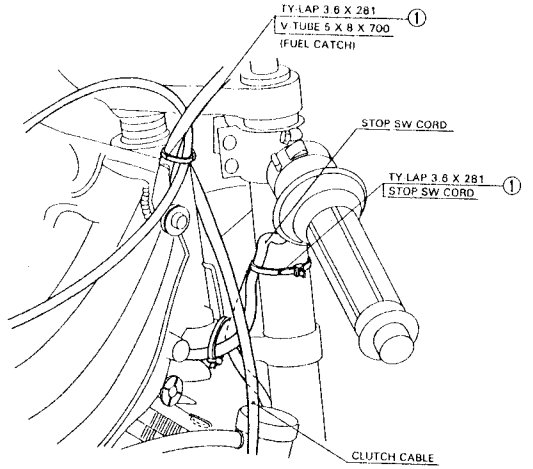
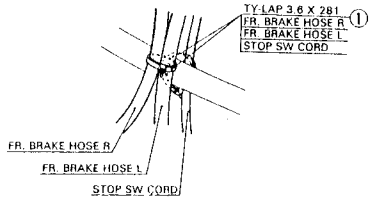
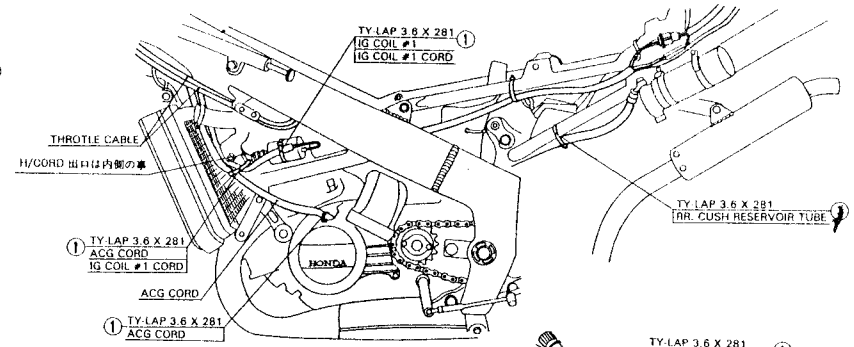
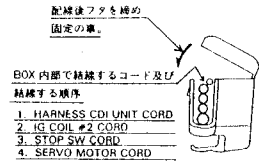
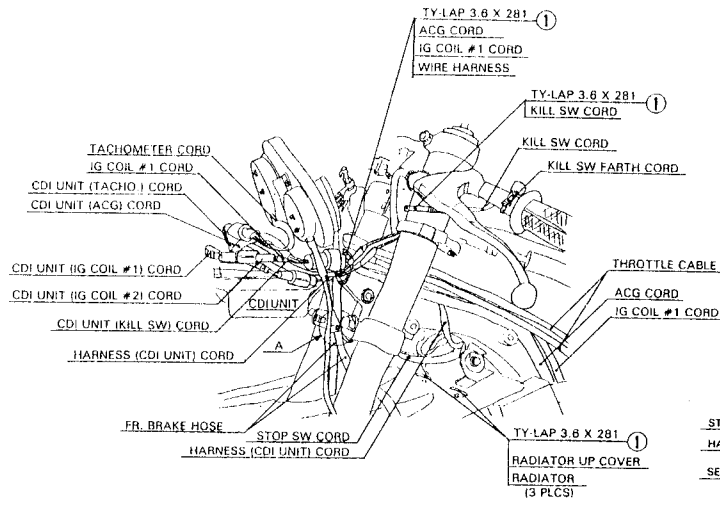


3) フレームボディ COMP.

ベース車に対して、補強をしてある。



●ワイヤリング



NOTE

1. 部品欄の DWG. NO. 及び個数は本図作成時点のものであり部品表指示を優先する。
2. CLIP 箇の表示は下記に示す。
CLIP 種名称
CLIP される部品名
3. 図示されていないワイヤリング及び RC バルブケーブル調整方法は APPL DWG と同様である。

No.	HRC コード	主な取扱 0-1 ブランド	ショップ名	〒No.	住 所	TEL	FAX
1	101025	●	㈱ボールポジション	206	東京都多摩市貝取607-3	0423-75-3083	0423-71-4784
2	101051	●	オートショップスガハラ南	114	東京都北区王子3-20-2	03-914-7500	03-914-7518
3	101054	●	㈱アールビーエム	191	東京都日野市日野669-2	0425-81-0421	0425-83-8544
4	101055	●	㈱マン島スポーツ	146	東京都台東区千鳥町2-11-3	03-750-3811	03-750-8849
5	101063	●	HONDA SPORTS MOTO BUM	110	東京都台東区台東4-13-23	03-831-4265	03-831-4282
6	101121	●	ホンダドリーム NODA	121	東京都足立区青井5-12-41	03-889-6415	03-849-4173
7	102012	○	ホンダショップ成田	211	神奈川県川崎市中原区中九子439	044-411-4171	切 換
8	102019	○	㈱スーパーウイングまるやま	255	神奈川県中郡大磯町高麗3-2-39	0463-34-0651	0463-33-6877
9	102032	●	㈱ライダーズサロン横浜	236	神奈川県横浜市金沢区片吹66-19	045-783-3638	切 換
10	103025	●	モトライフポイントユー・ギア	271	千葉県松戸市松戸1051-4	0473-61-1051	切 換
11	104010	○	㈱ホンダショップ和光	351	埼玉県和光市本町20-17	0484-61-7478	切 換
12	104036	●	㈱エンデュランス	350	埼玉県川越市山田1667-1	0492-22-7770	0492-22-8618
13	104038	●	モトウイング我來(ガル)	3013	埼玉県狭山市下奥宮613-1	0429-54-7467	0429-54-7288
14	105012	●	㈱ワールド筑波	3026	茨城県結城郡八千代町大字栗山字氏神896-3	0296-49-3138	0296-48-2307
15	115006	○	㈱モト・ショップ・ハマ	390	長野県松本市沢村3-1-12	0263-32-5231	0263-33-6205
16	116013	○	ホンダウイング高橋	946	新潟県北魚沼郡小出町虫野113-3	02579-2-0778	切 換
17	116021	○	㈱三愛バイクセンター	955	新潟県三条市下須頃24	0256-34-8325	切 換
18	201018	●	LA・MOTO KOHSAKA	497	愛知県海部郡蟹江町源氏1-6	05679-5-9991	05679-5-0698
19	203007	●	ホンダワールド㈱	513	三重県鈴鹿市住吉町6786	0593-78-1455	0593-78-6192
20	203009	○	THE BIKE ISAKA	510-02	三重県鈴鹿市稲生町7990-15	05983-8-3819	切 換
21	203012	○	三谷モーターズスポーツ	519-21	三重県多気郡多気町四定田324	05983-8-2222	05983-8-3898
22	204002	○	バイクショップ TRY	504	岐阜県各務原市那加信長町1-283	0583-83-7722	切 換
23	204014	●	ノースウイングJ・C	502	岐阜県岐阜市上土居1-6-1	0582-94-4481	0582-94-6291
24	207003	●	ホンダレッドシティ	937	富山県魚津市本江2535	0765-24-3121	0765-23-0638
25	301012	●	モビリティプラザタカダ	524	滋賀県守山市播磨田町381-4	0775-82-3227	0775-82-5090
26	302004	○	スーパーネッシー コクニ	621	京都府亀岡市篠町篠空殿林20-6	07712-4-6308	切 換
27	302005	○	バイクショップトムズ	603	京都府京都市北区柴野下鳥田町1-3	075-491-5552	切 換
28	303029	●	㈱スーパーモンキー	578	大阪府東大阪市玉串元町2-8-27	0729-64-3177	0729-65-0026
29	303030	●	㈱RSタイチ	574	大阪府大東市中垣内3-1-25	0720-74-5315	0720-74-3385
30	306021	●○	㈱サイクルワールド	673	兵庫県神戸市西区森友4-13	078-928-6644	078-928-4711
31	306031	○	ミネモーターサイクル	654-01	兵庫県神戸市須磨区妙法寺地子田1038-8	078-743-5440	切 換
32	307007	○	㈱梅木商会	700	岡山県岡山市南中央町12-9	0862-32-0011	0862-32-0014
33	307010	●	モトワールド	709-08	岡山県赤磐郡山陽町河本1076-5	08695-5-2519	切 換
34	307019	●	㈱パドック	708	岡山県津山市二宮662	0868-28-3191	0868-28-3198
35	312004	●	㈱ホンダアロー	771-01	徳島県徳島市川内町平石夷野250-2	0886-65-5330	0886-65-5595
36	401023	●	㈱ホンダショップ高武	814-01	福岡県福岡市城南区神松寺2-2-2	092-871-8198	092-871-8202
37	401036	●	ホンダショップライフ	802	福岡県北九州市小倉北区片野新町1-1-1	093-922-8914	093-922-8910
38	502008	●	ホンダウイングトムズ	044	北海道虻田郡倶知安町北1条西2	0136-22-1008	切 換
39	502021	●	㈱オートランド札幌	004	北海道札幌市白石区厚別中央3条1-1-1	011-892-3323	011-892-3349
40	608011	○	モト・ビット・マックス	969-11	福島県安達郡本宮町字栄田147-1	0243-33-2455	切 換
41	609008	●	㈱クルーズ	981-15	宮城県角田市角田字町152	0224-62-0671	0224-55-5613
42	609020	●	㈱ビッグフォー小松島	983	宮城県仙台市旭ヶ丘3-11-3	022-271-2181	022-271-2183
43	610005	○	㈱ホンダウイング荘内	980-01	山形県酒田市大字広野字中通32-1	0234-92-3838	0234-92-3488

HRCサービスショップ一覧

レーシングマシンのセッティングやメンテナンス、パーツが欲しい...etc.

レースに関することなら、なんでもHRCサービスショップにお気軽にご相談ください。

現在、全国に43店舗。いずれもレース経験豊富なお店です。

